

図1：受贈時の画稿

愛知県美術館受贈の杉本健吉『新・平家物語』画稿について

長屋菜津子、湯田 文

1、はじめに

2004年、愛知県美術館は故杉本健吉氏のご遺族より、遺作の一部の寄贈を受けた。受贈件数は196件、その内4件が『新・平家物語』関係の画稿であり、登録は左記のようになった。

JD200040001190000	水彩・素描	新平家物語挿絵(156枚)	制作年不詳	墨、紙
JM200040000010000	資料	新平家物語挿絵反古(236枚)	制作年不詳	墨、紙
JM200040000020000	資料	挿絵類(311枚+写真1枚)	制作年不詳	墨(一部水彩)、紙
JM200040000030000	資料	新平家物語新装本用挿絵(78枚)	制作年不詳	墨、紙

当初、愛知県美術館は、杉本健吉が吉川英治の書き下ろし長編小説、『週刊朝日』連載の『新・平家物語』の挿絵を担当して以来、これを生涯のライフワークとしていたこと、また杉本自身が「6回、描き直した(313の項参照)」と語っていたことは認識していたが、その「6回」にどのようなものがあるのか、ほとんど予備知識がないままでの調査開始であった。そこでおおまかに挿絵画稿のうち、『週刊朝日』の控ラベルのついた画稿が多く含まれていた一塊を「新平家物語挿絵」(JD200040001190000)、「新装本」と書き込まれた画稿が多く含まれていた一塊を「新平家物語新装本用挿絵」(JM200040000030000)とし、その他を、それぞれ「反古」と「挿絵類」として受贈した。なお、この分類は受贈した時点で、一つの箱に入っていたり、一つの袋に入っていたりというようなグループ分けを、そのまま受けたものである。

後述の論に必要であるので、ここで当館の登録番号について説明をしておく。当館の登録番号はアルファベット2文字と12桁の数字によって構成されており、その内訳は次の通りである。例えばJD200040001190000である場合、

J D 分野区分。Jは日本人の制作(Fは海外)、Dは水彩素描、Mは資料を指す。

2 0 0 4 収蔵年度を表す。

0 0 1 1 9 この年度の分野において、何番目の登録であるかを指す。

0 0 0 上記119番の登録がグループである場合、ここに枝番号が入る。

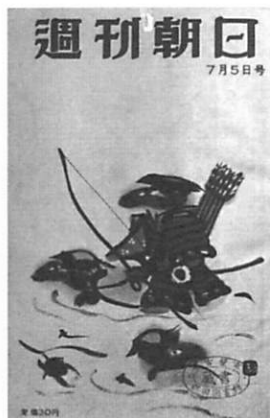


図2：週刊誌『週刊朝日』



図3：『刊行本』

本稿では上記の4件に含まれていた最終の総数、792葉を中心に取り上げるので、下6桁で作品の識別が可能になる。以後は受贈時のグループを示す下4桁から6桁台と、その枝番号で画稿を区別する。枝番号は受贈時の重なり順である（6の項参照）。従って例えば「新平家物語挿絵」（JD2004-00119-000）の一番上にあった画稿は、以後、119-001と表記する。

受贈した4件は登録記号が表すとおり、週刊誌『週刊朝日』連載用の原画として認識していたJD119-000のグループ以外は、JM番号つまり資料扱いとなった。

またこの4件以外に、『新・平家物語』関係としては左記のものがある。

JD200400120000	水彩・素描	扇面	新平家物語（10枚）	制作年不詳	墨・水彩、紙
JD200400121000	水彩・素描	火牛下図（38枚）		制作年不詳	墨、紙

2005年より整理を始めたが、愛知県美術館が受贈したこの4件も、整理が進むにつれ、非常に複雑な構成になっていたことがわかってきた。杉本健吉が生涯に亘って描いた『新・平家物語』関係の画稿は膨大な数にのぼり、愛知県美術館が受贈したものはその一部でしかない。他に所蔵を公表している館に、吉川英治記念館や杉本美術館などがあるが、それ以外の館、または個人でも所蔵されている可能性は高い。

ここで本論に入る前に、本稿の目的を明らかにしておきたい。目的には以下の三つのが挙げられる。一つ目は杉本健吉が描いた数々の『新・平家物語』について、発表された媒体にどのようなものがあったかについて、愛知県美術館の2008年3月現在の調査結果を報告することである。二つ目は発表された挿絵のうち、『週刊朝日』『刊行本』『新平家・画帖』『新装本』『小説週刊朝日』にどれだけ挿絵が発表されたのか、その全体像の掴み方として一つの整理表を提案し、その中で愛知県美術館が受贈した画稿が、どのような分布になっているかを示すことである。三つ目は、ある程度の完成度を持ち、一連の連作である可能性が高いものの、その発表先や制作目的が不明の三つのグループについて、今後の課題としてここに示すことである。

2、出版された吉川英治著『新・平家物語』

2-1、出版歴概要

吉川英治が朝日新聞社の週刊誌『週刊朝日』（図2）に『新・平家物語』を連載し始めたのは、1949年（昭和25年）4月2日号からのものであるが、当初の挿絵担当は他の画家であり（3-1の項、参照）、杉本は第36回からの担当となっている。連載は7年間におよび、回数は全355回に上った。この連載は好評であったようで、週刊誌の連載のすぐ後を追うようにして、単行本が朝日新聞社から発行される（以後、これを『刊行本』（図3）



図4：『私家本』

と称す)。吉川英治はこの『週刊朝日』に連載した文章に、その後、若干の訂正や修正を加えており、連載のものとして『刊行本』としては章名など、異なる部分もみられる。この『刊行本』に関して朝日新聞社は装丁や紙を上質なものに替えた非売品の限定版を製作している（以後、これを『私家本』（図4）と称す）。

この吉川英治の『新・平家物語』はそれ以後も、複数の出版社により様々な装丁で出版されてゆくことになる。その主な出版物を表3にまとめた。

吉川英治著『新・平家物語』出版物一覧

1	書名	出版社	発行年	全巻数(週刊誌のみ掲載回数)	杉本健吉による挿絵の有無	挿絵総数	モノクロorカラー	補足
1	週刊誌・週刊朝日	朝日新聞社	1950年1 1957年1	全355回	有	1000点以上	モノクロ	補足
2	新・平家物語(刊行本)	朝日新聞社	1951年1 1957年1	全24巻	有	1000点	モノクロ	杉本作・表紙1種類、見返し全48点
3	新・平家物語(私家本)	朝日新聞社	1951年1 1957年1	全24巻	有	1000点	モノクロ	非売品。装丁は異なるものの、内容・挿絵はほぼ2の刊行本に同じ。ただし、一巻のみ挿絵は原画を異にしている。
4	The Heike Story	Knopf社	1956年	全1巻	有	50点	モノクロ	
5	新・平家物語(新装本)	朝日新聞社	1960年	全8巻	有	77点	モノクロ	
6	新・平家物語(愛蔵版)	朝日新聞社	1960年	全10巻	有	30点	カラー	各巻3点ずつ
7	新・平家物語	朝日新聞社	1962年1 63年	全12巻	無			
8	吉川英治全集(33-38)	講談社	1967年1 1968年	全6巻	有	約30点	カラー	
9	新・平家物語	六興出版	1970年	全12巻	有	72点	カラー	原画は六曲一雙屏風に仕立てられた。吉川英治記念館所蔵
10	新・平家物語	六興出版	1971年	全12巻	無			
11	月刊誌・小説週刊朝日 新・平家物語	朝日新聞社	1972年	全12巻	有	1200点以上	モノクロ	杉本作・扉絵1種類。毎号ではないが、杉本による挿絵つきエッセイあり。原画は函帖に仕立てられた。杉本美術館所蔵
12	新・平家物語(限定版)	朝日新聞社	1973年	全12巻	有	1200点以上	モノクロ	内容・挿絵ともに小説週刊朝日に同じ。杉本作・表紙1種類
13	吉川英治歴史時代文庫(96-111) 新・平家物語	講談社	1989年	全16巻	無			

吉川英治著書以外

1	書名	出版社	発行年	全回数or全巻数	挿絵の有無	挿絵総数	モノクロorカラー	補足
1	新平家・函帖	朝日新聞社	1956年1 1959年	上下2巻	有	303点	モノクロ	

朝日新聞社でも『刊行本』・『私家本』に止まらず、それ以後20年間にわたり『新・平家物語』の様々なハードカバー本を出版している。旧仮名遣いを新仮名遣いに改めることを機会に作られた8巻本（以後、これを『新装本』



図7：『限定本』



図6：月刊誌『小説週刊朝日』



図5：『新装本』

(図5)と称す)、12巻本(以後、『愛蔵版』)、10巻本(テキストのみ)などであり、朝日新聞社の社史(参考文献21)によるとそこまでの出版物だけでも発刊総数は計400万部になったという。ちなみに『刊行本』以降は、章名等の変更はないようである。

ところで『新・平家物語』は常に売れ続けた文学作品であったのももちろんであるが、発表後20年を経て、もう一度大ブームを巻き起こす。1972年(昭和47年)、NHKの大河ドラマの原作に選ばれ放映された時のことである。NHKの大河ドラマはこの前年の『天と地と』放映中にカラー放送に切り替わる。すなわち全編カラーの大河ドラマとしての第1号がこの『新・平家物語』なのである。この放映を見越して、『新・平家物語』の版權を持っている各出版社は増版し対応したが、朝日新聞社は、この年まったく新しい企画で、『新・平家物語』を限定的に出版した。もともとの週刊誌の形態に限りなく似せた月刊誌としての『小説週刊朝日』(図6)の発行である。冒頭にテレビ関係の情報やグラビアを配した雑誌形態ではあるが、本文には新たに1200枚あまりの杉本の描きおろし挿絵が添えられ、総販売部数は235万部を超えたという(参考文献21)。この『小説週刊朝日』は『新・平家物語』のためだけに発行され、それ以後この月刊誌が発行されることはなかった。朝日新聞社は『刊行本』の時と同様、この『小説週刊朝日』に関しては、別に限定非売品として装丁本を製作している(以後、これを『限定本』(図7)と称す)。

これらの出版の時系列は、資料編1「年代表」を参照頂きたい。なおこの年代表に沿って、吉川英治と『新・平家物語』周辺のことについて以下に補足説明する。

2-1-2、『随筆 新平家』(図8)

吉川英治はこの小説を書くにあたり、古典文学に留まらず、古文書をあたり、また現地調査を行っている。これらの現地調査は朝日新聞社の協力によって実現したようであるが、その「取材旅行」の様子が、連載中から時折紙面上に『新平家今昔紀行』や『新平家篇外』といった名称で紀行文として発表されている。またこれら紀行文以外にも、本編を補足するような短文が『筆間茶話』といった名称で『新・平家物語』に付随した形で、月に一度の割合で発表されている。

後にこれらは1冊の本にまとめられ『随筆 新平家』として出版された。ちなみに杉本健吉はこの取材旅行によく随行しており、文中にも吉川英治から見た杉本の人物スケッチが散見され非常に興味深い資料となっている。『週刊朝日』連載時、単行本、ともに杉本が挿絵を担当している。



図10：002-211
『新平家・画帖』
題字原画

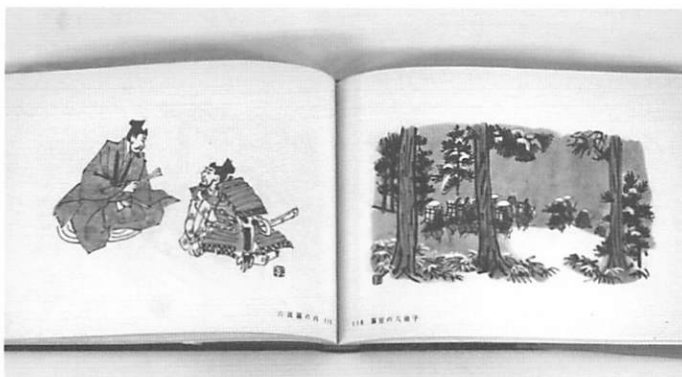


図9：『画帖新平家』



図8：『随筆 新平家』

2-3、『戯曲 新・平家物語』

1961年(昭和36年)に、吉川英治は前進座から『新・平家物語』を上演させて欲しいという申し出を受け、これを承諾する。夫人の吉川文子氏によると(参考文献16) 最初の大坂公演の前には、書かれたシナリオが送られてきていたのだが、当時連載中の『私本太平記』の執筆に追われ、ついに目を通さなかった。続く東京公演を依頼された時、初めてシナリオに目を通し「これで新平家をやらせては困る」と言ったという。そして全編にわたり書き直したのが、『戯曲 新・平家物語』である。

『新・平家物語』の場合は平清盛の青年時代から源頼朝没後まで、ほぼ100年の栄枯盛衰の物語であるが、この『戯曲 新・平家物語』では、青年時代の平清盛の人物像が主題となっており、その主旨を明確にするためである。ろ、いささか『新・平家物語』の該当時期のストーリーとも、異なる展開となっている。

ちなみに吉川英治はその翌年に没しているが、前進座の公演はその後何度か行われている。

2-4、『新平家・画帖』

厳密な意味で吉川英治の著作ではないが、『新・平家物語』関連の重要な出版物として『新平家・画帖』についてここで報告を加える。杉本の挿絵を高く評価した吉川は、挿絵が週刊誌の紙面で終わってしまうのは惜しいと考えるようになった。吉川からのこの考えは朝日新聞社からも受け入れられ、『新平家・画帖』(図9)が作られることになった。この上巻の発刊を前に『週刊朝日』の誌面上で浦松佐美太郎は、「清盛の青年時代から晩年までを一区切りとし、この間の杉本さんの挿絵の中から傑作を選び出し、それを一冊の本にまとめようというのである。(…中略…) 杉本さんは、その中から百五十枚ほどの作品を選び出す仕事を引き受けられた」(参考文献3)と述べている。最初は既に発表された挿絵の選抜本の予定であったのだが、杉本は選抜するのではなく、ほとんどの絵を描きなおす。

『週刊朝日』連載中の1956年(昭和31年)、吉川英治は病氣療養のため4回連載を休んでいる。この時がちょうどこの『新平家・画帖 上巻』の出版の直前にあたる。突然の病氣療養のため、空いた紙面をふさぐ努力が朝日新聞社によって行われ、そこで本と同名の『新平家・画帖』という3回限りのシリーズが誌面上に誕生した(図10)。第1回目は前述の浦松が、吉川休載の事情とこの『新平家・画帖』誕生の裏話、そして杉本の挿絵についての文章を寄せている(参考文献3)。第2回、第3回は杉本健吉自らが執筆しており、過去の名場面の解説や制作の裏話など、新しい挿絵を加えて紹介している。この文章には、『新・平家物語』の挿絵の為に、杉本自らが実際

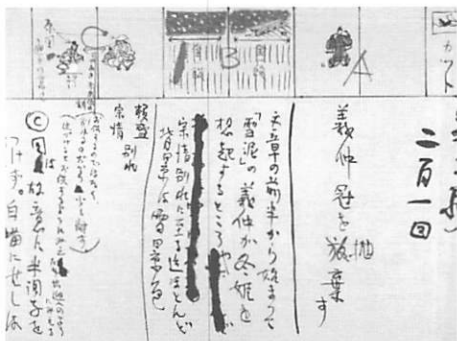


図13：002-275 レイアウト校正

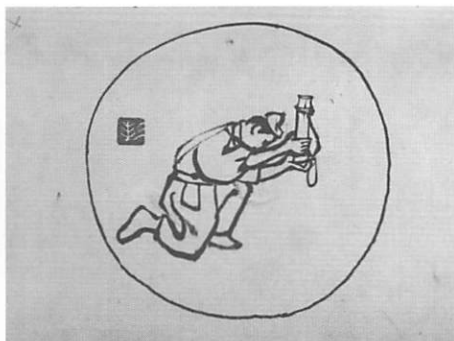


図12：002-185 ×のついた画稿（左上）



図11：002-011 ○のついた画稿（左上）

に鎧を着てみたことや、警察学校に行き、実際に縛り上げてもらったことなど、数々のエピソードが紹介されている（参考文献4・5）。

3、杉本健吉の挿絵

3-1、『週刊朝日』への登用

当初、『新・平家物語』の挿絵は吉川英治の希望もあり、前田青邨に依頼された。しかし毎週の連載ということに断られ、朝日新聞社による交渉の結果、「前田青邨考証・守屋多々志挿絵」の組み合わせで連載が始まる。守屋多々志は前田青邨の弟子である。

しかしこの師弟関係の中で作画は順調にはいかず、吉川英治は挿絵に不満を漏らすようになったと伝えられている。

一方、この時の杉本は奈良での制作に没頭していた時代であり、この奈良を中心とした「天平の会」に所属し、上司海雲や志賀直哉、会津八一、入江泰吉といった文化人との交流も行っていた（参考文献24）。杉本は自らを『新・平家物語』の挿絵担当に抜擢された時は「何も知らない素人だった」と述べているが、杉本と朝日新聞社との結びつきは、この文化人仲間の1人であった仏文学者の辰野隆に、朝日新聞社が奈良のお水取りの取材を依頼し、それに対し辰野が杉本に挿絵を依頼したことに始まっている（参考文献25）。

この杉本と吉川を引き合わせたのが、当時朝日新聞出版局長であった嘉治隆一であると言われている（参考文献26）。嘉治は奈良に行き、杉本に天女を描いた絵馬を依頼する。吉川にはその年、次女香屋子が生まれており、その「お祝い」として杉本の絵を吉川に見せる便を取ったのである（参考文献6、22、26）。一方で杉本に対しては挿絵担当を引き受けるよう説得をするが、杉本は当初これを断っている。しかし嘉治のかなり強引な説得に折れ、まずはテストに応じるのである（参考文献26）。

杉本の2001年のインタビュー記事（参考文献26）によると、最初に書いた絵は「清盛」ということになっていく。朝日新聞社や吉川らの審査を受けたらしい。試作で受け入れられたものには「・・・には○がついていた」という思い出も語っている。当館受贈の画稿の中には、いくつかの当時のテストあるいは競争時代のものと思われる、いわゆる試作が含まれており、その中には鉛筆で○や×が書き込まれたものもあった（図11、図12）。

杉本が正式に挿絵担当となるのは連載の36回目からである。吉川が挿絵に対し非常に厳しい要求を持っていたこともあったのであろう、朝日新聞社もそれなりの体制で臨んだようである。まず、月に一度杉本を上京させ、直接、



図14：実際の誌面

吉川と挿絵に関して話し合う「反省の機会」（参考文献4・14）を企画している。また週刊誌では当時として異例ともいえる試みとして『新・平家物語』の紙面には極力広告を載せず、ページそのものを「舞台だと思え」という指示を杉本に出している。後にはこの『新・平家物語』のページだけ紙質を換える事まで行っていたようである（参考文献23）。

一方、杉本は絵の構成を練るだけでなく、朝日新聞社の製版室や工場の中を歩きまわり、その工程を習熟する努力も行っている（参考文献25、26）。杉本はそれらの工程の技術者の技術を「私の絵を、生かすも殺すも、彼らの腕次第」と称し「世間に知られない下積みの仕事」として『新平家画帖』の「あとがき」にわざわざ敬意を表する文を書いている（参考文献14）。画稿には切り張りされたものや、胡粉による修正やハイライト入れなどが散見される。また「35倍に」といった寸法指定など、印刷に関する指示の書き込みも多い。またページ全体のレイアウト指示に関する杉本の描いた指示書や、校正も残されており（図13、図14）、吉川や朝日新聞社の要望に添うよう、努力していた様が窺える。

愛知県美術館が受贈した『週刊朝日』連載の挿絵原画は、初期のものから連載1000回ぐらいたまると、飛んで300番代初期のものが多く含まれている。この2桁代の原画と300番代の原画を比較しますと、縮小指定がされており、杉本が連載の終盤には当時の印刷技術上のテクニックを、充分に利用する術を備えていたことがわかる。

3-2、書き下ろし連載の挿絵画家

連載が書下ろしであるということは、挿絵担当に特別の環境を与える。杉本は吉川が原稿を書き上げるまでは、何を描けばいいのかわからない状態で待たされる（参考文献26）。しかし当然、出版のための締め切りには間に合わせなければならぬ。しかも時代考証などに関して援助をしてくれる人もない。杉本にはいつも充分な時間がなかったらしく、原稿を渡されたその日の夜しか描く時間がないというようなことは頻りにあったようである。それどころか、上京して朝日新聞社の寮で吉川が原稿が上がるのを待っていたこと（参考文献26）、吉川に「絵がた」というイメージの略画を渡され（参考文献23）、それを元に描いたこと、どうしても間に合わず、当時の中部支社から写真電送で画稿を送らなければならなくなったことなど、その時間のなさにまつわるエピソードは杉本自身の証言以外にも、その周辺からさまざまな形で見つけることができる。最終回の時などは、吉川宅の客間で編集局の人とともに、原稿が上がるのを待っていたという（参考文献8）。

一方において、それだけ話題になった連載であるので、読者の目は厳しいものがあつた。杉本は「舟のことは船



図15：119-052
『週刊朝日』連載時の
「春風坂東歌」

頭さんが(図15、図16)、家のことは大工さんが。みな専門家のご意見です。調べ物はなまけられません。まして投書されない陰の声は、いつも師匠の眼が光っているようなものです」(参考文献2、5、6、26)と語っている。そもそも著者である吉川からして絵心があったから、さまざまな注文を事細かにつけていたらしい。後に吉川がそのことを指して「無理難題を押し付けたが、良き女房役がいたからこそできた」と記述しているほどである(参考文献8)。

3-3、その後の出版物

杉本は、その『週刊朝日』での連載後、『新・平家物語』が出版される毎に新たに挿絵を描きなおしており、同じ絵を汎用することは少ない。なぜ杉本はこれだけ数多くのシリーズを描いたのであろうか。

第一の理由は、もちろん杉本自身がこの吉川英治の『新・平家物語』という物語に深い興味を持っていたことを挙げねばならないだろう。しかし理由はそれだけでなく、他に二つのことが挙げられよう。

一つは連載に関しては途中登用であり、それを追いかけて発行される『刊行本』に関しては必然的に描き足さなければならなかったこと、もう一つは「3-2、書き下ろし連載の挿絵画家」の項で述べた条件で描いた連載中の挿絵には、杉本自身に不完全燃焼の思いが多分にあったということである。

杉本は様々な場面で、これら『新・平家物語』の画稿を「答案用紙」という言いまわしで表現している。第2、第3の答案用紙が、どれにあたるのかは、実はその時々で違ってしまうのであるが、第1の答案用紙である『週刊朝日』の挿絵の出来になんらかの不満を持っていたということだけは間違いないだろう。それは「馬の手綱を描き忘れた」とか「舟の右舷で櫂を漕がせてしまった」(参考文献5)(図15、図16)とか、そういった下調べが不十分であったことの後悔にとどまらず、吉川英治の文章そのものへの読み込みに関してもあったに違いない。1986年、杉本は翌年の杉本美術館開館の為に、『新・平家物語』の名場面をもう一度描き、それを屏風に仕立てているが、開館記念のカタログに「さしえというものは、短時間に描かねばならぬ、いわば試験の答案のようなもので、一旦誌上に出たら、やり直しのきかない宿命にあるのです。このままでは成仏できないので第2の答案を、べ切時間の無い仕事として描き、それが又第3、第4と後を引き、この屏風は第6番目の答案になり(…中略…)完結します」という文を添えている。

4、挿絵整理表(愛知県美術館作成)の説明

4-1 表の見方概要



図16：003-005
『新装本』の「春風坂東歌」



図17：119-152 未採用原稿
「なるべくこれも採用して
下さい」の文字がある。

当館が受贈した画稿は、『週刊朝日』、『刊行本』、『新装本』、『小説週刊朝日』の各画稿が多かったので、これらの掲載本を中心に、資料2のような表を作成した。これは『新・平家物語』の章を中心に、どこに杉本が描いた挿絵が挿入され発表されたかを示すと共に、愛知県美術館が受贈した画稿にどのようなものがあったかを示す表である。表中の「000-000」の6桁の数字が、当館受贈画稿の登録番号である（1、はじめにの項参照）。各掲載本によって多少説明が必要になるので下記に補足説明を行う。なお本稿において画稿はすべて登録番号によって記載されているが、目録作成作業とともに、各画稿に名称をつける作業が行われた。各名称は左記の通りである。

発表先

連載番号と割付記号あるいは巻数

「章名」

（固有の画題）

原画・未発表画稿・下絵の区別

ページ数 もしくは通し番号

のうち、判明している情報によって命名した。

章名に関しては、2-1で述べたとおり、『週刊朝日』連載中と『刊行本』で異なる場合があるため、『刊行本』の章名を基準とした。

4-2 週刊誌『週刊朝日』（図2）

『週刊朝日』におけるレイアウトの基本は、1回の連載につき、題字周辺の「カット」と、挿絵が二つから三つというのが基本である。印刷指示には「カット」「A」「B」「C」の記号が使用されていたのでそれを継承した。

出版されたものの原画であるものが確認されたものは、表のうち作品番号の列に登録番号を記した。

右側の「未発表・下絵」の項に記入された画稿には三つの種類のものがある。

下絵
・・・押印のないもの

未発表画稿・・・押印はあるが、発表された形跡のないもの、あるいは確認ができなかったもの。中には入稿されたものの編集の段階で未採用になったと思われるものもある（図17）。

試作

・・・守屋多々志氏が挿絵担当だったはずの時期のもの。3-1の項で述べたテスト、競作の作品が該当する（図11、図12）。

ちなみに、『週刊朝日』に連載された「随筆 新平家」のうち紀行文に関する挿絵、「画帖 新平家」のために新

たに描かれた挿絵はこの表に含まれない。

4-3 『刊行本』および『私家本』(図3、図4)

全24巻統一の外箱と表紙デザインを持っており、これも杉本が描いている。1冊につき3から5枚の白黒挿絵が挿入されている。1頁全面の挿絵であるので基本は縦絵構図であるが、一部見開き2ページを使用し、結果、横絵構図になっているものもある。

挿絵の列の「1-1」といった表記が書き込まれた章に挿絵が存在する。この「1-1」という表記は「1巻目の第1の挿絵」を示す。当館が受贈した原画がある場合は、その右横、作品番号の列に登録番号が記されている。基本的に『刊行本』と『私家本』は同じ挿絵が使用されているはずであるが、冒頭の「1-1」と「1-2」だけ『刊行本』と『私家本』とで挿絵が異なる。当館はこの両方を受贈したので、『私家本』の挿絵原画は、この『刊行本』作品番号の欄に、「私家本」と注釈の上、記入した。『週刊朝日』と同様、右側の「未発表・下絵」の項に、この時期の該当画稿を記入した。比較的時期の近い『画帖』用の下絵との区別は、おもに縦構図のための下絵か横構図のための下絵かという点と、印影の違いで区別した。

本の表表紙見返絵と裏表紙見返絵は異なる彩色画が用いられ、全24巻すべて絵が異なる。出版された当時、この見返絵を吉川は非常に楽しみにしていたらしい記述がある(参考文献11・12・13)

また各巻に付録がついている。形状はB4を四つ折にしたもので、「新・平家の窓」「新・平家の葉」「新・平家物語便覧」といった名称は時々異なる。その中のカットや挿画も杉本が描いているものが多い。特に便覧に描かれた挿画は非常に緻密なものである。

残念ながら表紙、見返絵、付録用のカット、挿画はこの表には反映されていない。

4-4 『新平家画帖』(図10)

本の形態が横長であるので、横構図の絵が多い。一部『週刊朝日』連載中のものと原画を兼ねているものがある。ほとんどの原画が吉川英治記念館に所蔵されている。表紙その他の装丁に杉本が描いたものは使用されていない。なお、それぞれの画題は吉川によって命名されたものである(参考文献5)。

4-5 『新装本』(図5)



図19：001-213

手控画稿に記入されている番号



図18：JM001-000が入っていた袋

装丁は東山魁夷が行っている。1冊につき7から13葉の挿絵がある。『刊行本』と同じく1頁全面の挿絵であるので基本は縦絵構図である。

『刊行本』と同じく挿絵の列の「1-1」の表記が「1巻目の第1の挿絵」を指す。この「新装本」の挿絵77葉はすべて当館が受贈したことを確認した。作品番号の列に登録番号が記されている。この『新装本』の挿絵は、杉本が統一して一種の「印」を使用していること、統一の用紙サイズで原画を描いていることなどの特徴が挙げられる。

4-6 月刊誌『小説週刊朝日』および『限定本』（図6、図7）

受贈時JM200400001000として登録されたこの一塊は、一つの袋に納められており、その袋には「新平家物語 昭和46年 初心 重要」という杉本の文字が書かれていた（図18）。またこの袋の中のものだけ、他のものと異なり、紙質は新しく、杉本60代半ばの「小説週刊朝日」の頃の画稿であることは間違いないだろう。

ところでこの『小説週刊朝日』に掲載された原画は、すべて画帖として仕立てられ杉本美術館の所蔵となっている。従って当館受贈の画稿には原画は1枚も無い。ところが、中に非常に完成度の高いものがあり、場面名や数字の書き込みがあった（図19）。その数字を参照していくと、杉本美術館が所蔵している画帖仕立て本の整理番号とほぼ同一であることが確認できた。

杉本美術館の鈴木学芸員によると、杉本は時々、一度描いたものの複製を自ら取ることがあり、それを「手控」と称していたという。当館が受贈した他の水彩素描の中にも「手控」の文字が書かれた冊子の例がある。よって

手控画稿・・・押印され、統一の数字が記入されたもの

下絵・・・上記以外

とした。ちなみにこの手控画稿はすべてが揃っているわけではない。

一方、ご遺族、杉本美術館双方の記憶に、共通して残っている事象がある。それはこの『小説週刊朝日』の画帖のコピーを宮内庁に献上したというものである。杉本美術館が所蔵しているこの画帖は全巻を積み上げると、50cmを越える分量になる。献上本として名場面を選抜した縮小版を作製したとしたら、その選外が杉本の手元に残っていても不思議ではない。このことに関しては宮内庁三の丸尚蔵館にも協力して頂いたが、宮内庁が管理している範囲では確認ができなかった。

『限定本』は装丁本であり、その表紙絵も杉本が新たに描いている。



図21：前進座パンフレット表紙



図20：002-026

発表先不詳グループAのうち、
発表先は判明したもの

登録番号	目録上の作品名	制作年	材料技法	書き込み
J M 2 0 0 0 4 0 0 0 0 0 2 0 3 2	発表先不詳グループA「神輿ぶり」画稿	制作年不詳	墨、紙	
J M 2 0 0 0 4 0 0 0 0 0 0 2 0 3 0	発表先不詳グループA「政子」画稿か戯曲 新・平家物語 第一部 6「清水寺女滝の前」	制作年不詳	墨、紙	
J M 2 0 0 0 4 0 0 0 0 0 0 2 0 2 3	発表先不詳グループA「貧乏草」もしくは「すがめ殿」画稿	制作年不詳	墨、紙	
J M 2 0 0 0 4 0 0 0 0 0 0 2 0 2 6	前進座 新橋演舞場 昭和38年12月興行パンフレット表紙の原画	制作年不詳	墨、紙	
J M 2 0 0 0 4 0 0 0 0 0 0 2 0 2 2	発表先不詳グループA「鶴持ち小冠者」画稿	制作年不詳	墨、紙	
J M 2 0 0 0 4 0 0 0 0 0 0 2 0 2 1	発表先不詳グループA「新妻月夜」画稿	制作年不詳	墨、紙	
J M 2 0 0 0 4 0 0 0 0 0 0 2 0 2 5	発表先不詳グループA「出離」画稿	制作年不詳	墨、紙	
J M 2 0 0 0 4 0 0 0 0 0 0 2 0 2 8	発表先不詳グループA「胎児清盛」画稿	制作年不詳	墨、紙	
J M 2 0 0 0 4 0 0 0 0 0 0 2 0 3 1	発表先不詳グループA「去りゆく母」画稿	制作年不詳	墨、紙	
J M 2 0 0 0 4 0 0 0 0 0 0 2 0 3 4	発表先不詳グループA「源氏の父子・平氏の父子」画稿	制作年不詳	墨、紙	
J M 2 0 0 0 4 0 0 0 0 0 0 2 0 2 7	発表先不詳グループA「女院と西行」画稿	制作年不詳	墨、紙	
J M 2 0 0 0 4 0 0 0 0 0 0 2 0 2 4	発表先不詳グループA「鬼影」画稿	制作年不詳	墨、紙	
J M 2 0 0 0 4 0 0 0 0 0 0 2 0 3 3	発表先不詳グループA「美しき家族」画稿	制作年不詳	墨、紙	
J M 2 0 0 0 4 0 0 0 0 0 0 2 0 2 9	発表先不詳グループA 戯曲 新・平家物語 第一部「わんわん市場」か	制作年不詳	墨、紙	

5-2 発表先不詳グループA

「1、はじめに」でも述べた、ある程度の完成度を持ち、かつある一連の連作である可能性が高いと思われるものの、その発表先や制作目的が不明の3つのグループについて、今後の課題としてここに挙げる。

- 5、発表先不詳グループ A・B・Cについて
5-1 今後の調査課題

共通の印影を持ち、いずれも非常に面白い朱肉を使用している特徴を持つ。また紙の形状も統一性を持つ。もともとのこのグループに分類されていたが002-026(図20)だけは、後に発表先が特定できた。この画稿に書き込まれている歌は、『新・平家物語』の原作には無いものであり、吉川英治の『戯曲 新・平家物語』の方に出てくるものである。調査の結果、「前進座 新橋演舞場 昭和38年12月興行パンフレット(前進座宣伝部発行)」表紙に使用された原画であることが確認できた(図21)。また002-029の荒法師の図(図22)も、荒法



図23：002-003
発表先不詳グループA



図22：002-029
発表先不詳グループA

師たちは原作にも度々登場の場面はあるのだが、いずれも神輿振りであったり、強訴を前提とした詮議の場面だったりする。このような場合、吉川によると荒法師の出立ちは「足は、わらんぢ、或いは平下駄」(『刊行本』では第8巻にあたる「土下座陣」より)と、常日頃の高下駄と異なる状態を描写しているから、当てはまらなくなる。そしてそういう戦闘状態で無い荒法師たちが徘徊する場面が出てくるのは『戯曲 新・平家物語』の方である。また002-003(図23)も、『戯曲 新・平家物語』第一部 6 清水寺女滝の前」の場面の袈裟御前と盛遠(後の文寛)の設定に近いものがある。

しかしそうすると 002-022が描いている「鶏持ち小冠者」の場面や、002-034が描いている「源氏の父子・平氏の父子」の場面は、吉川英治の『戯曲 新・平家物語』では省かれている場面であるので具合が悪くなる。

ただ2-3の項で述べたとおり、前進座で上演された舞台『新・平家物語』には、少なくとも2つのシナリオがある。インターネット上では、この吉川英治作『戯曲 新・平家物語』を読んだ読者から、「本当に上演されていた舞台のシナリオとはまったく異なるもの」という書き込みもある。吉川英治の『新・平家物語』は芝居の他にも、日本舞踊の題材その他になることも多かったようである。002-026の例で見るとおり、杉本が頼まれて舞台その他のパンフレットや広報物用に描いたのではないかと推定される。今後の調査を期待したい。

5-3 発表先不詳グループB

登録番号	目録上の作品名	制作年	材料技法	書き込み
J M 2 0 0 4 0 0 0 0 0 2 1 8 9	発表先不詳グループB「水鳥記」画稿	制作年不詳	墨・水彩、紙	
J M 2 0 0 4 0 0 0 0 0 2 1 9 1	発表先不詳グループB「逆さ兜の事」(清盛逆兜)画稿	制作年不詳	墨・水彩、紙	清盛逆兜 ⑦ あづかり
J M 2 0 0 4 0 0 0 0 0 2 1 9 0	発表先不詳グループB「春の議題」(清盛と朱鼻)画稿	制作年不詳	墨・水彩、紙	③(三) 清盛と朱鼻 薔薇園新邸成り(トキワのために新邸を造り)朱鼻の案内で清盛検分してきたところ。注意 朱鼻を赤くすること 忘れないように
J M 2 0 0 4 0 0 0 0 0 2 1 0 1	発表先不詳グループB「常盤草子」画稿	制作年不詳	墨・水彩、紙	②(二) 常盤
J M 2 0 0 4 0 0 0 0 0 2 1 0 4	発表先不詳グループB「燈籠大臣」(重盛)画稿	制作年不詳	墨・水彩、紙	(六) 燈籠大臣(重盛) ⑧ 線香の煙注意
J M 2 0 0 4 0 0 0 0 0 2 1 0 3	発表先不詳グループB「大天井」(牛若鞍馬脱出)画稿	制作年不詳	墨・水彩、紙	(五) 牛若鞍馬脱出 ⑤
J M 2 0 0 4 0 0 0 0 0 2 1 0 2	発表先不詳グループB「車あらい」画稿	制作年不詳	墨・水彩、紙	車争ひ ④(四)



図25：002-151
発表先不詳グループC

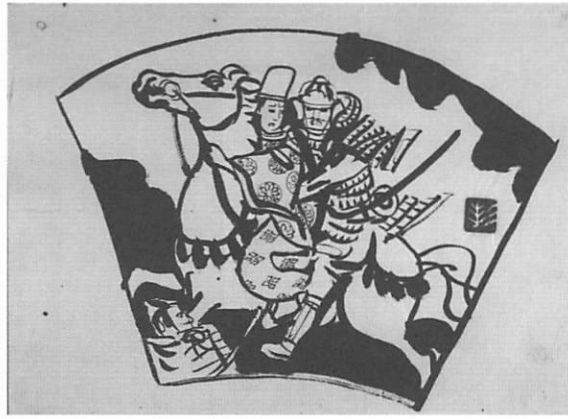


図24：002-012 競作時代に使用されていた印

JM20004000002100 発表先不詳グループB「祇園女御」画稿 制作年不詳 墨・水彩、紙 木工助、平太相権す(一)

数少ない彩色画であるが、現在のところ発表先を特定できていない。002-1189を除いて、1から7の通し番号が付けられており、ひとつの連作であることは間違いがない。また「線香の煙に注意」とか「赤鼻の鼻を赤くすることを忘れないように」など、印刷上の細かい注意点が書き込まれていることなどから、何かの印刷原稿であったことはまず間違いがないだろう。

5-4 発表先不詳グループC

登録番号	目録上の作品名	制作年	材料技法	書き込み
JM20004000002151	発表先不詳グループC「流人船」	制作年不詳	墨、紙	流人船
JM20004000002178	発表先不詳グループC「文覚往来」	制作年不詳	墨、紙	(赤字) 文覚参上
JM20004000002179	発表先不詳グループC「木の葉皿」	制作年不詳	墨、紙	(赤字) 乞食
JM20004000002180	発表先不詳グループC「文覚往来」カット	制作年不詳	墨、紙	(赤字) カット
JM20004000002181	発表先不詳グループC「文覚往来」	制作年不詳	墨、紙	(赤字) 文覚参上
JM20004000002182	発表先不詳グループC「木の葉皿」	制作年不詳	墨、紙	(赤字) 乞食

このグループで特徴的なことは、いずれも少し厚手の紙に張り込まれていること、本紙だけではなく、その台紙にはみ出る枠線や文字が書き込まれていることが挙げられる。これらの特徴を持つこのグループが、ちょうど、週刊朝日の連載での守屋多々志担当の最後の回分にあてはまり、他に試作は確認されていない。

杉本は「守屋多々志と競作」の時代があったことを語っているが(参考文献26)、それが何回からであるかの記録は残していない。当館受贈のものうちでは、前に遡る名場面を除き、連続しているところでは、第30回からのものが確認できている。ちなみにこの競作時代、杉本は印を手書きで書き込むか、ある一つの印を使用しており(図24)、その印影で確認することが可能である。このCグループは残念ながら手書きの印が多く、印が使用されているのは002-1151だけである。この002-1151の印影は、文字の彫りは競作時代と同一と思われるが、印の下辺がいささか丸みを帯びており(図25)、他のもののように断定しがたい。

杉本は自分で篆刻して印を作っていたようである。比較的柔らかい石を使用することがあったようであり、まわりがどどんかかけてゆく様子が、連載中の印だけを追っていても感じられる。長い連載中、幾たびも印を変えているのもそのせいであると考えられる。しかしこの場合の下辺の丸みの変化が磨り減りによるものだという断定は避けたい。

このグループが、最後の競作、週刊朝日の試作であると断定できるだけの根拠が弱く、今後の調査が待たれる所

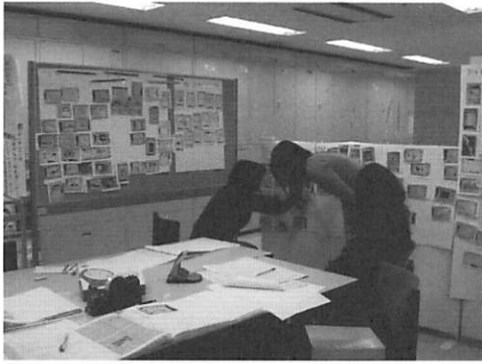


図27：整理作業風景



図26：整理用ファイル

である。
6、愛知県美術館整理作業

愛知県美術館が受贈した時の作品の重なりは、特に法則性があるものではなかった。当館がとった整理のおおまかな手順は、以下の通りである。

1、「現秩序尊重の原則」に従い、受け取った時の重なり順に枝番号をつけた。
2、すべての画稿について撮影した。
3、『週刊朝日』、『画帖』、『刊行本』、『新装本』に関しても、挿絵部分の撮影した。
4、『週刊朝日』、『画帖』、『刊行本』、『新装本』の挿絵を一覧できるように、3の画像を出版物別のファイルにあらずし順に綴じた。

5、2を使用して、各画稿の縮小版を作った。

6、作品の余白に、杉本自身あるいは編集者らによる文字情報が書き込まれた画稿がある。特に原画の場合は、その確立が高い。よって文字情報を頼りに発表された掲載し該当場所を探した。例えば前述の119-052の場合、「87回B」の書き込みがある。『週刊朝日』87回目「春風坂東歌」誌面上の挿絵と比較し、確認してから5で作った縮小版コピーを4のファイルに貼りこんだ。(図26)

7、残った縮小版コピーを、すべて壁に貼り出した。

8、4のファイルの発表された挿絵を見ながら、7で壁に貼り出した画稿の中から該当するものを探した。(図27)

9、該当する作品は4のファイルに仮留めした。

10、特に下絵などの場合、『週刊朝日』、『刊行本』、『画帖』の同じ場面を並列にし、どちらのためのものか、比較検討してから、確定していった。

11、残ったものについて、他に発表先を探した。

3年をかけた長い行程であり、いずれも手間のかかる作業である。特に8の作業は難航を極めた。文字情報が比較的多く書かれていたとはいえ、8の作業の最初は400枚ぐらいの縮小版が並び、カルタ取りの手法とは言え、まるでトランプゲーム「神経衰弱」の態である。

実は4から9の作業に関して、館内の職員だけではやりきれず、愛知県美術館友の会の中の「所蔵作品管理に関するサポート部会」の皆様方に多大なご協力を賜った(図27)。通常、このサポート部会は月に2回のペースで、様々

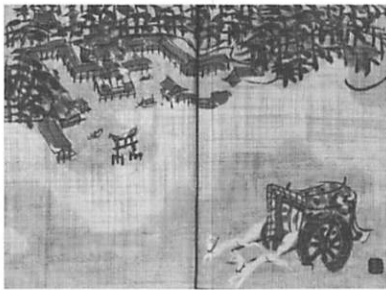


図30：『刊行本』第5巻見返し



図29：『週刊朝日』第63回連載



図28：JD-120-006
『扇面 新平家物語』夢占い

なサポート活動を行って下さっているが、この挿絵整理に関しては、三ヶ月ほど集中して、活動日を倍にしてサポートして下さった。おそらくこのサポート部会の援助がなかったら、この挿絵整理は未だに目処が立たなかったに違いない。

7、『愛蔵版』と扇面

『画帖 新平家物語扇面』（JD2004-120-1から10まで）は、扇面型の紙にカラーで『新・平家物語』の各場面が描かれたものと、植物が描かれたもの合わせて全10点の作品群である。当初、ばらばらだったものを、愛知県美術館が物語の順番に並びかえ、画帖に仕立てた。この作品群は、印刷物として発表された形跡がないため、制作年の特定は難しい。しかし、似たような形態や構図の作品を見つけ、そこから制作年を推定することは可能である。ここでは、それら扇面の中でも特に「夢占」の場面が描かれた扇面（120-6 図28）に焦点を絞り、制作年について考察を進めたい。

この「夢占」の場面が最初に描かれたのは『週刊朝日』の連載時で、全355回のうち、第63回（1951年）に登場する（図29）。後の1956年に発行された『新平家・画帖上』でも同じ原画が採用されたこの作品は、図28とは異なり、背景の厳島神社風景や虹はなく、二匹の狐と車に焦点を絞ったシンプルな構図である。背景がはじめて登場するのは、1952年に発行された『刊行本』5巻の見返絵である（図30）。画面上半分に厳島神社が描かれているが、図28が鳥全体を描いているのに対し、こちらは神社とその周辺のみを大きく描いている。また、狐と車の向きは図29の『週刊朝日』のものと同じで、左を向いており、これは図28とは逆向きで、画面の中における配置も異なることから、図28と『刊行本』の図30が描かれた時期にはまだ隔たりがあるといっていよう。図28の扇面に急に近づくのが、朝日新聞社が発行した『新・平家物語』の『愛蔵版』図31である。これは『週刊朝日』でこの場面が初めて登場した年から14年も後の、1965年に発行されたもので、10巻からなる。興味深いのは、杉本健吉が描いたこの本の挿絵の形態が、問題の扇面の作品群に似ているということである。つまり、1巻に3点ずつある挿絵がすべて、横長の扇面の形の中に描かれたカラーの挿絵なのである。扇面の形に挿絵などを描きこむ手法は、杉本作品の中では多くみられ、それがいつ頃から始まったものであるかは、まだ未調査である。しかしながら、吉川英治記念館には1960年から5年かけて描いたという「新・平家物語」扇面絵物語があり、『愛蔵版』の出版も1965年であることから、杉本がこの時期、集中的に扇面画を描いていたということが出来る。つまり問題の図28の扇面画もこの時期に描かれたものである可能性がある。そこで、図28と図31の構図を比べてみると、図28の画面左に描かれた時子が『愛蔵版』の図31にはなく、また反対に図31の下端に描かれている木々や、船が図



図32：『小説週刊朝日』夢占い

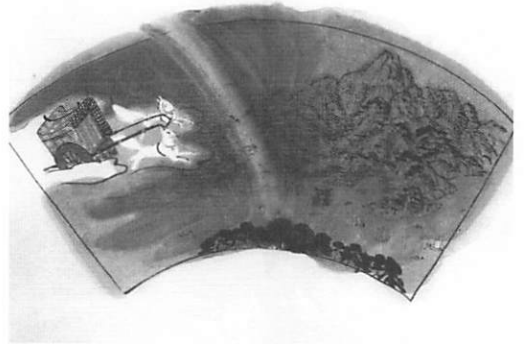


図31：『愛蔵版』第2巻 カラー口絵

28には描かれていないという点を除けば、モチーフや構図などはよく似ている。これらのことから、問題の扇面の作品群は『愛蔵版』の下図、もしくは『愛蔵版』の制作から発想を得たもので、制作年も『愛蔵版』の発行年に近いのではないかと考えた。しかしその可能性も、1972年に発行された『小説週刊朝日』の挿絵（図32）の登場で低くなる。『小説週刊朝日』の「夢占い」の挿絵で注目すべきは、二匹の狐の描写が図28の狐の描写と酷似している点、また敵島神社の描写が『愛蔵版』の図31よりも、図28により近い点の二点である。構図が似ているというだけでは、このような細かな描写までが似るといふことは、二つの作品に制作時期という点で、何らかの関連があるのではないだろうか。

以上から、図28の扇面が描かれた時期は、『愛蔵版』と『小説週刊朝日』の間、もしくは『小説週刊朝日』のあとで、『小説週刊朝日』により近い時期ではないかという推測ができる。杉本健吉の『新・平家物語』挿絵では、同じ場面を繰り返し描いているために、構図の変遷などからこのような推測も可能である。しかし、画面左に大きく描かれた時子の姿が描かれているのはこの扇面だけであり、引用元が明らかになっていないことなど、確証的な根拠は今回発見することができず、制作年を特定するまでには至らなかったため、今後新たな視点の発見が求められる。

8、おわりに

受贈時、『新・平家物語』の挿絵の整理に、これだけの労力を要するということは誰も予測していなかった。整理しようとするほど、ますます分らないことが増えていき、あせりを感じ続けた中盤の苦しい時期を、今はなつかしく思い出すことができる。それは1人の作家が30年以上をかけてテーマを咀嚼し、作品を昇華させてゆくその過程とはどういうことなのか、整理できてこそ見えてくる、その終盤の感動の日々があったから言えることである。

「1、はじめに」で述べたとおり、杉本健吉の『新・平家物語』の画稿は、当館が受贈したものがすべてではない。おそらくいくつかの美術館、資料館、個人宅に分散している可能性がある。しかしこれらの整理が非常に難しいことを当館は身を持って体感した。恐らく、画稿は多ければ多いで作業が煩雑になるが、逆に画稿が少ない場合でも、発表先を探すことは、勝るとも劣らない困難が生じるに違いない。

この報告書がそのような所有者の整理の一助となり、1点でも多くの画稿に公開の機会が訪れるきっかけになれば幸いである。

本稿のうち、「7、『愛蔵版』と扇面」、表3および資料編を湯田が、それ以外を長屋が分担して執筆した。

また整理作業および本稿をまとめるにあたり以下の皆様にご協力頂きました。ここに記してお礼を申し上げます。

調査協力

愛知県美術館友の会所蔵作品管理サポート部会 鈴木 威(杉本美術館)

佐藤史郎 大須賀千嘉枝 志水明子 加藤里英

資料提供

杉本家ご遺族 高坂三男 杉本美術館 名古屋市図書館 愛知県図書館 三の丸尚蔵館
佐藤史郎 大須賀千嘉枝 荻野 孝 宇佐美勝己 神原 亮

参考文献

18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
杉本健吉	吉川文子	杉本健吉	杉本健吉	吉川英治	吉川英治	吉川英治	吉川英治	吉川英治	吉川英治	吉川英治	杉本健吉	吉川英治	杉本健吉	杉本健吉	浦松佐美太郎		
中部画壇の達人達	清盛への深い愛情	あとがき	さしえ十二年	あとがき	歳寒雜記	草の實抄	客窓雜記	新潟・白浪抄	さしえについて	完結のこぼし	新平家とともに	跋 杉本氏の人間と異彩ある挿絵へ	新平家・画帖	新平家・画帖	新平家・画帖	故実考証に苦勞、さし絵はむづかしい	
朝日新聞	前進座12月興行 パンフレット								朝日出版月報	週刊誌・週刊朝日			週刊誌・週刊朝日	週刊誌・週刊朝日	週刊誌・週刊朝日	朝日新聞(中部版)	
									11月号								
		新・平家物語 戯曲	わたしの 吉川英治	新平家・ 画帖 下巻	隨筆 新平家	隨筆 新平家	隨筆 新平家	隨筆 新平家	隨筆 新平家	新平家・ 画帖 上巻	新平家・ 画帖 上巻					朝日社史	
朝日新聞社	前進座宣伝部	朝日新聞社	文藝春秋新社	朝日新聞社	朝日新聞社	朝日新聞社	朝日新聞社	朝日新聞社	朝日新聞社	朝日新聞社	朝日新聞社	朝日新聞社	朝日新聞社	朝日新聞社	朝日新聞社	朝日新聞社	朝日新聞社
1967年(昭和42年) 9月2日付	1963年(昭和38年) 12月3日	1963年(昭和38年) 9月15日	1963年(昭和38年) 2月5日	1958年(昭和33年)10月1日	1958年(昭和33年)6月5日	1958年(昭和33年)6月5日	1958年(昭和33年)6月5日	1958年(昭和33年)6月5日	1957年(昭和32年) 11月	1957年(昭和32年) 3月17日	1956年(昭和31年) 4月22日	1956年(昭和31年) 4月22日	1956年(昭和31年) 5月13日	1956年(昭和31年) 5月6日	1956年(昭和31年) 4月29日	1954年(昭和29年) 1月12日付	1950年(昭和25年) 4月2日

26									
25	井上隆生(構成)	インタビュー・杉本健吉画伯『新・平家物語』の挿絵について	朝日新聞夕刊	第66巻 10号		朝日新聞社	1992年(平成4年) 4月25日		
24	上司海雲(きさき)	連載対談1 味楽談菜	料理手帖	4月号		朝日放送 振興会	1970年(昭和45年)		
23	杉本健吉	吉川英治先生の絵			『吉川英治展』 カタログ	神奈川県文学 振興会	1989年(昭和64年) 10月21日		
22		インタビュー 美術館に生涯作品2200点	東海新聞			東海新聞社	1988年(平成元年) 3月27日付		
21		『小説週刊朝日 新・平家物語』の成功			朝日新聞 出版局50年史	朝日新聞社	1988年(平成元年) 5月30日		
20	杉本健吉	描いてみたい 麻島絵巻	小説週刊朝日 月刊誌・ 小説週刊朝日	12月号		朝日新聞社	1972年(昭和47年) 12月1日		
19	杉本健吉	挿絵余話 鎧着のこと	月刊誌・ 小説週刊朝日	6月号		朝日新聞社	1972年(昭和47年) 6月1日		

【資料1 制作時期年表】

西暦	昭和	年齢	月	日	トピックス	日	週刊朝日	日	刊行本	日	画帖本	日(月)	その他印刷物		
1945	昭和20	40			終戦										
1946	昭和21	41													
1947	昭和22	42													
1948	昭和23	43													
1949	昭和24	44			吉川、奈良吉野に遊び、『新・平家物語の構想を固める』										
1950	昭和25	45	1												
			2												
			3												
			4			2	第1回								
			5												
			6												
			7			2	14回								
			8			13	20回								
						20	21回								
						27	22回								
						3	23回								
						10									
			11												
			12		杉本『新・平家物語』挿絵担当になる。中旬頃、吉川らとともに、第1回取材旅行。父、銀次郎 没	13	36回								
						31	39回								
1951	昭和26	46	1				7	40回							
							14	41回							
			2				11	新平家今昔紀行(上)							
							17	新平家今昔紀行(中)							
							25	新平家今昔紀行(下)							
			3				4	48回							
			4												
			5												
			6								20	1巻発行			
									1	65回／					
			7			8	続・新平家今昔紀行第一回								
						15	続・新平家今昔紀行第二回								
						22	続・新平家今昔紀行第三回	30	2巻発行						
						29	続・新平家今昔紀行(最終回)								
			8												
			9												
						2	74回	20	3巻発行						
			10												

西暦	昭和	年齢	月	日	トピックス	日	週刊朝日	日	刊行本	日	画帖本	日(月)	その他印刷物
1951	昭和26	46	11			4	83回	25	4巻発行				
			12			30	91回						
1952	昭和27	47	1			6 13 20	92回 93回						
			2					20	5巻発行				
			3			2	99回						
			4						30	6巻発行			
			5			4	108回						
			6										
			7			6	117回		20	7巻発行			
			8										
			9			7	126回						
			10						20	8巻発行			
			11			2	134回						
			12			28	142回		20	9巻発行			
1953	昭和28	48	1			4	143回						
			2					5	10巻発行				
			3			1 20	151回 新・平家今昔紀行						
			4					20	11巻発行				
			5			3	160回						
			6										
			7			5	168回		25	12巻発行			
			8										
			9			6 13 20	178回 178回 179回						
			10			4 11 18 25	181回 182回 183回 184回						
			11						10	13巻発行			
			12			27	193回						
1954	昭和29	49	1			3	194回						
			2			21	201回	10	14巻発行				
			3		個展で「東大寺炎上」と「くりから峠」を発表								
			4					12	15巻発行				

西暦	昭和	年齢	月	日	トピックス	日	週刊朝日	日	刊行本	日	画帖本	日(月)	その他印刷物	
1954	昭和29	49	5		個展で「火牛」を発表	2	211回							
			6											
			7				4 11 18	篇外の上 篇外の下 220回						
			8											
			9				5 23	227回 77回	25	16巻発行				
			10				10 17 24 31	232回 233回 234回 235回						
			11				7 14 21 28	236回 237回 238回 239回						
			12				5 12 19 26	240回 241回 242回 243回	10	17巻発行				
1955	昭和30	50	1		溝口健二監督 市川雷蔵主演 映画『新・平家物語』封切	2 9	244回 245回							
			2											
			3			6	253回							
			4			3 24	257回 260回	1	18巻発行					
			5			1 8 22 29	261回 262回 264回 265回							
			6			5 12	266回 267回							
			7			3 24	270回 273回							
			8			7 28	275回 278回	1	19巻発行					
			9			4 11 18 25	279回 280回 281回 282回							
			10			2 9 16 23 30	283回 284回 285回 286回 287回							

西暦	昭和	年齢	月	日	トピックス	日	週刊朝日	日	刊行本	日	画帖本	日(月)	その他印刷物	
1955	昭和30	50	11			6 13 20	288回 289回 290回	30	20巻発行					
			12			18 25	294回 295回							
1956	昭和31	51	1			1 8 15 22 29	296回 297回 298回 299回 300回							
			2			5 12 19	301回 302回 303回							
			3			4 11 18 25	305回 306回 307回 308回							
			4	29	吉川英治	1 8 15 22 29	309回 310回 311回 312回 画帖(浦松)	15	21巻発行	20	上巻発行			
			5	20	療養休み	6 13 20 27	画帖(杉本) 画帖(杉本) 新平家 能登紀行 313回							
			6			3 10 17 24	314回 315回 316回 317回							
			7			1 8 15 22 29	318回 319回 320回 321回 322回							
			8			5 12 19 26	323回 324回 325回 326回							
			9			2 9 16 23 30	327回 328回 329回 330回 331回	20	22巻発行					
			10			7 14 21 28	332回 333回 334回 335回							

アメリカで英訳本出版
"The Heike Story" Knofit社

西暦	昭和	年齢	月	日	トピックス	日	週刊朝日	日	刊行本	日	画帖本	日(月)	その他印刷物	
1956	昭和31	51	11			4 336回 11 337回 18 338回 25 339回								
			12			9 341回 16 342回 23 343回 30 344回								
1957	昭和32	52	1			6 345回 13 346回 27 348回								
			2			3 349回 10 350回 17 351回 24 352回	10	23巻発行						
			3			3 353回 17 最終回								
			4			28 杉本健吉誌上近作展								
			5			12 杉本健吉誌上近作展 19	25	24巻発行						
			6			原画展・オリエンタル中村画廊								
			7											
			8											
			9											
			10											
			11		文部省芸術執行委員会・長唄協会主催 「第12回芸術祭創作長唄講演 『新・平家物語』11部曲発表会							左記発表会、パンフレット		
			12											
1958	昭和33	53												
			1		原画展・名古屋松坂屋ギャラリー									
			2											
			3											
			4											
			5											
1959	昭和34	54	6									5	「隨筆 新平家」発行	
			7											
			8											
			9											
			10								30	下巻発行		
			11											

西暦	昭和	年齢	月	日	トピックス	日	週刊朝日	日	刊行本	日	画帖本	日(月)	その他印刷物		
1959	昭和34	54	12												
1960	昭和35	55	1												
			2												
			3												
			4										15	新装本第1巻発行	
			5										25	新装本第2巻発行	
			6										25	新装本第3巻発行	
			7										25	新装本第4巻発行	
			8										25	新装本第5巻発行	
			9										25	新装本第6巻発行	
			10										25	新装本第7巻発行	
			11										15	新装本第8巻発行	
			12												
1961	昭和36	56	6		前進座『新・平家物語』上演開始 吉川『戯曲 新・平家物語』										
1962	昭和37	57	1												
			2												
			3												
			4												
			5												
			6												
			7	7	吉川英治没										
			8												
			9												
			10												
			11												
			12												
1963	昭和38	58	4												
			12		前進座『新・平家物語』興業						15	「全12巻」本発行 朝日新聞社(挿絵なし)			
1964	昭和39	59			原画展・名古屋東海銀行本店ロビー							3	前進座講演パンフレット表紙		
1965	昭和40	60	12		1960年から5年をかけて物語全体から96場面の扇面を描き、[扇面絵巻物語]を制作(吉川英治記念館蔵)								10	愛蔵版発行(全十巻)	
					大阪歌舞伎座 新国劇『新・平家物語』上演										左記パンフレット表紙
1966	昭和41	61													
1967	昭和42	62	1												

西暦	昭和	年齢	月	日	トピックス	日	週刊朝日	日	刊行本	日	画帖本	日(月)	その他印刷物		
1967	昭和42	62	2												
			3												
			4												
			5												
			6												
			7												
			8											20	講談社吉川英治全集33(一)
			9											20	講談社吉川英治全集34(二)
			10											20	講談社吉川英治全集35(三)
			11											20	講談社吉川英治全集36(四)
			12											20	講談社吉川英治全集37(五)
			1968	昭和43	63	1									20
2															
3															
4															
5															
6															
7															
8															
9															
10															
11															
12															
1969	昭和44	64													
1970	昭和45	65													
1971	昭和46	66			六興出版挿絵72葉による六曲一雙屏風完成 (吉川英治記念館蔵)							六興出版全12巻、本発行 (カラー挿絵全72葉)			
1972	昭和47	67	1									1	小説週刊朝日 1		
			2									1	小説週刊朝日 2		
			3									1	小説週刊朝日 3		
			4									1	小説週刊朝日 4		
			5			NHK大河ドラマ『新・平家物語』放映						1	小説週刊朝日 5		
			6									1	小説週刊朝日 6		
			7									1	小説週刊朝日 7		
			8									1	小説週刊朝日 8		
			9									1	小説週刊朝日 9		

西暦	昭和	年齢	月	日	トピックス	日	週刊朝日	日	刊行本	日	画帖本	日(月)	その他印刷物	
1972	昭和47	67	10									1	小説週刊朝日10	
			11										1	小説週刊朝日11
			12										1	小説週刊朝日12
1973	昭和48	68										限定本発行		
1974	昭和49	69												
1975	昭和50	70												
1976	昭和51	71												
1977	昭和52	72												
1978	昭和53	73												
1979	昭和54	74												
1980	昭和55	75												
1981	昭和56	76												
1982	昭和57	77												
1983	昭和58	78												
1984	昭和59	79												
1985	昭和60	80												
1986	昭和61	81			「新・平家物語屏風」製作(杉本美術館蔵)									
1987	昭和62	82			杉本美術館開館									
1988	平成元	83												
1989	平成2	84												
1990	平成3	85												
1991	平成4	86												
1992	平成5	87												
1993	平成6	88												
1994	平成7	89												
1995	平成8	90												
1996	平成9	91												
1997	平成10	92												
1998	平成11	93												
1999	平成12	94												
2000	平成13	95												
2001	平成14	96												
2002	平成15	97												
2003	平成16	98												
2004	平成17	99			杉本健吉 没									

【資料2 挿絵整理表】

連載 順数	週刊誌「週刊朝日」1950年から1957年				「刊行本」1951年から1957年					「面帖」1956年と1959年			「新装本」1960年			月刊誌「小説週刊朝日」1972年		
	文章名	挿絵	作品番号	未発表画稿/下絵	巻名	文章名	挿絵	作品番号	未発表画稿/ /下絵	作品番号	未発表/ 下絵	巻名	作品番号	未発表/ 下絵	巻名	掲載番号	未発表/下絵/手控	
1	「はしがき」に代へて	カット	守屋多々志												1	-		
1	貧乏草	A	守屋多々志		1巻ちげくさの巻	貧乏草									1	1/2	1手控 001-013/ 2下絵 001-148/ 2手控 001-029	
1	わんわん市場	B	守屋多々志		1巻ちげくさの巻	わんわん市場									1	3	下絵 001-146/ 001-147	
2	胎児の騒乱	A	守屋多々志		1巻ちげくさの巻	胎児騒乱						1-1	003-077		1	4/5	5下絵 001-113	
2	龍殿と三人の男	B	守屋多々志		1巻ちげくさの巻	祇園女御									1	6	未発表 001-038/ 下絵 001-141/ 手控 001-039	
2	龍殿と三人の男	C	守屋多々志		1巻ちげくさの巻	祇園女御						上3	平太閤々園					
3	夜来風雨急	A	守屋多々志		1巻ちげくさの巻	夜来風雨急									1	7・8		
3	孤児	B	守屋多々志		1巻ちげくさの巻	去りゆく母									1	9	下絵 001-114/ 「新春風語」 下絵? 001-117	
3	孤児	C	守屋多々志		1巻ちげくさの巻	去りゆく母	1-1	002-265/ 私家本 002-050										
4	競べ馬	カット	前田青都		1巻ちげくさの巻	競べ馬									1	10		
4	競べ馬	A	守屋多々志													11	下絵 001-112/ 下絵 001-164/ 下絵 001-202	
4	袈裟御前	B	守屋多々志		1巻ちげくさの巻	袈裟御前									1	12		
5	宿僧の女御	A	守屋多々志		1巻ちげくさの巻	宿僧の女御									1	13	下絵? 001-063	
5	宿僧の女御	B	守屋多々志													14	下絵 001-097/ 下絵 001-115/ 下絵 001-116	
5	好色法皇	C	守屋多々志		1巻ちげくさの巻	好色法皇									1	15		
5	前回までの梗概	カット	前田青都												1	16		
6	祝杯	A	守屋多々志		1巻ちげくさの巻	祝杯									1	17		
6	新妻月夜	B	守屋多々志	試作 002-233	1巻ちげくさの巻	新妻月夜	1-2	002-049/ 私家本 002-051						1-2	003-078	1	18	
7	栗鼠の夢	A	守屋多々志		1巻ちげくさの巻	栗鼠の夢									1	19	下絵 001-144	
7	栗鼠の夢	B	守屋多々志															
7	鬼影	C	守屋多々志		1巻ちげくさの巻	鬼影									1	20/21	下絵 001-143	
8	貞操百花園	カット	前田青都		1巻ちげくさの巻	貞操百花園									1	22	未発表 001-041/ 下絵 001-155	
8	馬上吟	A	守屋多々志		1巻ちげくさの巻	馬上吟									1	23		
8	馬上吟	B	守屋多々志													24		
9	地下人さかもり	カット	前田青都		1巻ちげくさの巻	地下人さかもり									1	25		
9	鳥獣戯画	A	守屋多々志		1巻ちげくさの巻	鳥獣戯画									1	26		
9	鳥獣戯画	B	守屋多々志													27	下絵 001-142/ 下絵 001-150/ 手控 001-040	
10	梗概に代へて	カット	前田青都													28		
10	鷗持ち小冠者	A	守屋多々志		1巻ちげくさの巻	鷗持ち小冠者									1	29	下絵 001-152	
10	染め繻の記	B	守屋多々志		1巻ちげくさの巻	染め繻の記									1	30	下絵 001-145	
11	蕩り火談議	カット	前田青都		1巻ちげくさの巻	蕩り火談議									1	31/32		
11	歌使ひ	A	守屋多々志		1巻ちげくさの巻	歌使ひ												
11	源氏の父子・平氏の父子	B	守屋多々志		1巻ちげくさの巻	源氏の父子・ 平氏の父子									1	33		
12	乳人の恋	カット	前田青都		1巻ちげくさの巻	乳人の恋									1	34		
12	乳人の恋	A	守屋多々志													35		
12	長恨宮		守屋多々志		1巻ちげくさの巻	長恨宮									1			
12	出離	B	守屋多々志		1巻ちげくさの巻	出離									1	36		
13	女院と西行	カット	守屋多々志		1巻ちげくさの巻	女院と西行	1-3	002-116						1-3	003-079	1	37	
13	女院と西行	A	守屋多々志													38	下絵 001-151/ 下絵 001-153/ 下絵 001-173/ 下絵 001-220	

連載 順数	週刊誌「週刊朝日」1950年から1957年				『刊行本』1951年から1957年				『面帖』1956年と1959年			『新装本』1960年			月刊誌「小説週刊朝日」1972年		
	文章名	挿絵	作品番号	未発表画稿/下絵	巻名	文章名	挿絵	作品番号	未発表画稿/下絵	作品番号	未発表/下絵	巻名	作品番号	未発表/下絵	巻名	掲載番号	未発表/下絵/手控
13	六波羅開地	B	守屋多々志		1巻ちげくさの巻	六波羅開地									1	39	
14	童のあひまに	カット	前田青邨												1	40	
14	大比叡	A	守屋多々志		2巻九重の巻	大比叡									1	41	下絵? 001-094
14	神輿振り	B	守屋多々志		2巻九重の巻	神輿振り									1	42	
15	人間到るところ人間あり	カット	前田青邨		2巻九重の巻	人間到るところ人間あり									1	43	手控 001-012
15	童の冷戦	A	守屋多々志		2巻九重の巻	童									1	44	
15	童の冷戦	B	守屋多々志						上11 六波羅新亭園	未発表 002-085						45	
16	あらしの前	カット	前田青邨		2巻九重の巻	あらしの前									1	46	
16	案山子陣	A	守屋多々志		2巻九重の巻	案山子陣									1	47	
16	一投石	B	守屋多々志	試作? 119-050	2巻九重の巻	一投石	2-1	002-221			上12 破邪	1-4	003-016		1	48	
17	石の雨	カット	前田青邨		2巻九重の巻	石の雨									1	49/50	49 下絵 001-111
17	悪左府	A	守屋多々志		2巻九重の巻	悪左府									1	51	
17	悪左府	B	守屋多々志						上13 殿上大論議								
18	美しき家族	カット	前田青邨		2巻九重の巻	美しき家族									1	52	
18	美しき家族	A	守屋多々志													53	
18	野風	B	守屋多々志		2巻九重の巻	野風									1	54	下絵 001-111 (兼49下絵)/ 下絵? 001-105
19	前回までの梗概	カット	前田青邨													55	
19	童女像	—	守屋多々志		2巻九重の巻	童女像	2-2	002-015							1		
19	鞠	A	守屋多々志		2巻九重の巻	鞠									1	56	
19	立后二花	B	守屋多々志		2巻九重の巻	立后二花						1-5	003-017		1	57	
20	煩悩ぐるま	カット	守屋多々志		2巻九重の巻	煩悩ぐるま									1	58/59	59 手控 001-110
20	叢御所	A	守屋多々志		2巻九重の巻	叢御所									1	60	
20	叢御所	B	守屋多々志														
21	土用麴	カット	前田青邨		2巻九重の巻	土用麴									1	61・62	61 手控 001-036
21	摂政争奪	A	守屋多々志		2巻九重の巻	摂政争奪									1		
21	苦い菊酒	B	守屋多々志		2巻九重の巻	苦い菊酒	2-3					1-6	003-018		1	63	
22	幼帝御一世	カット	前田青邨		2巻九重の巻	幼帝御一世									1	64	
22	女の国	A	守屋多々志		2巻九重の巻	女の国									1		
22	熊野巫女	—	守屋多々志		2巻九重の巻	熊野巫女									1	65	
22	釘	B	守屋多々志		2巻九重の巻	釘					上15 大狗開扉				1	66	
23	梗概に代へて(一閑話体題一)	カット	前田青邨		3巻九重の巻	釘									1	67	
23	柳ノ水	A	守屋多々志		2巻九重の巻	柳ノ水	2-4	002-055			上16 柳の水	1-7	003-019		1	68	
23	茨	B	守屋多々志		2巻九重の巻	茨									1	69	
24	二つの門	カット	前田青邨		2巻九重の巻	二つの門									1	70	
24	如法闇夜	A	守屋多々志		2巻九重の巻	如法闇夜									1	71	
24	保元・地獄序曲	B	守屋多々志		2巻九重の巻	保元・地獄序曲					上17 御免の武者				1	72	下絵 001-154
25	赤旗の下	カット	前田青邨		2巻九重の巻	赤旗の下									1	73	
25	赤旗の下	A	守屋多々志		3巻九重の巻	赤旗の下									1	74	
25	零余子舞子	B	守屋多々志		2巻九重の巻	零余子舞子									1	75	
26	白旗の下	カット	前田青邨		2巻九重の巻	白旗の下									1	76	
26	白旗の下	A	守屋多々志		3巻九重の巻	白旗の下									1	77	
26	源太産衣	B	守屋多々志		2巻九重の巻	源太産衣					上18 常盤の別れ				1	78	
27	保元元年の乱、当年を基準として	カット	前田青邨		3巻九重の巻	源太産衣									1	79	
27	宇治路の関	A	守屋多々志		3巻ほげんの巻	宇治の関									1		
27	呉将と越村	B	守屋多々志		3巻ほげんの巻	呉将と越村					上19 清盛と源義朝	002-315			1	80/81	
28	踏巻騒ぎの事	カット	前田青邨		3巻ほげんの巻	踏巻騒ぎの事									1	82	下絵 001-096
28	踏巻騒ぎの事	A	守屋多々志		4巻ほげんの巻	踏巻騒ぎの事					上20 踏巻騒ぎ				1		
28	為朝	—	前田青邨		3巻ほげんの巻	為朝									1	83	

連載 順数	週刊誌「週刊朝日」1950年から1957年				『刊行本』1951年から1957年					『面帖』1956年と1959年			『新装本』1960年			月刊誌「小説週刊朝日」1972年		
	文章名	挿絵	作品番号	未発表画稿/下絵	巻名	文章名	挿絵	作品番号	未発表画稿/ /下絵		作品番号	未発表/ 下絵	巻名	作品番号	未発表/ 下絵	巻名	掲載番号	未発表/下絵/手控
28	加茂川濁水記	B	守屋多々志		3巻ほげんの巻	加茂川濁水記										1	84	下絵 001-107/ 下絵 001-108/ 下絵 001-109
29	瀬々の水玉	カット	前田青都		3巻ほげんの巻	瀬々の水たま										1	85	
29	兄・弟	A	守屋多々志		3巻ほげんの巻	兄・弟	3-1	002-235					1-8	003-020		1	86	
29	兄・弟	B	守屋多々志		4巻ほげんの巻	兄・弟											87	
30	陸下と麻島	カット	前田青都	試作 002-012/ 試作 002-072/ 試作 002-136	3巻ほげんの巻	陸下と麻島										1	88	
30	陸下と麻島	A	守屋多々志	試作 002-185/ 試作 002-186	4巻ほげんの巻	陸下と麻島											89	
30	鶏の眼玉	B	守屋多々志	試作 002-011/ 試作 002-168	3巻ほげんの巻	鶏の眼玉										1	90	
31	般若野一露	カット	前田青都		3巻ほげんの巻	般若野一露										2	91	
31	般若野一露	A	守屋多々志		4巻ほげんの巻	般若野一露											92	
31	窮鳥	B	守屋多々志	試作 002-008/ 試作 002-009	3巻ほげんの巻	窮鳥										2	93	
32	この篇からの手引一梗概に代 へて	カット	前田青都														94	
32	黒業白心	—	守屋多々志	試作 002-007/ 試作 002-010/ 試作 002-084	3巻ほげんの巻	黒業白心										2		
32	いかづち雲	A	守屋多々志	試作 002-007	3巻ほげんの巻	いかづち雲										2	95	
32	いかづち雲	B	守屋多々志	試作 002-172													96	
33	志賀寺さんげ	カット	前田青都	試作 002-006/ 試作 002-171	3巻ほげんの巻	志賀寺さんげ										2	97	
33	夜の観	A	守屋多々志	試作 002-013	3巻ほげんの巻	夜の観										2	98	
33	夜の観	B	守屋多々志														99	
34	文覚往来	カット	前田青都	試作 002-180か	3巻ほげんの巻	文覚往来							1-9	003-021		2	100	
34	文覚往来	A	守屋多々志	試作 002-178/ 002-181か			3-2	002-125									101	
34	木の葉皿	B	守屋多々志	試作 002-179/ 002-182か	3巻ほげんの巻	木の葉皿										2	102	
35	火炎行列	カット	前田青都		3巻ほげんの巻	火炎行列										2	103	
35	流人船	A	守屋多々志	試作 002-151か	3巻ほげんの巻	流人船										2	104	
35	流人船	B	守屋多々志														105	
36	前回までの梗概	カット	119-014													2	106	
36	松かぜ便り	A	119-118		3巻ほげんの巻	松かぜ便り	3-3						1-10	003-022		2	107	
36	白峯紀行	B			3巻ほげんの巻	白峯紀行										2	108	
37	江口の君たち	カット	119-022		3巻ほげんの巻	江口の君たち										2	109	下絵 001-102
37	江口の君たち	A	119-130														110	手控 001-101
37	色禅尼	B	119-054		3巻ほげんの巻	色禅尼	3-4						1-11	003-023		2	111	
38	深草謀議	カット	119-076		3巻ほげんの巻	深草謀議										2	112	
38	朱鼻どの	A			3巻ほげんの巻	朱鼻どの										2	113	
38	朱鼻どの	B	119-060														114	下絵ほか001-092
39	熊野立ち	カット	119-072		3巻ほげんの巻	熊野立ち										2	115	
39	熊野立ち	A	119-142														116	
39	罰	B	119-064		3巻ほげんの巻	罰										2	117	
40	前号までの梗概	カット	119-104													2	118	
40	商人胸膈	A	119-063		4巻六波羅行幸の巻	商人胸膈										2		
40	不知火	B			4巻六波羅行幸の巻	不知火										2	119	
40	不知火	C															120	
41	暗黒宮	カット			4巻六波羅行幸の巻	暗黒宮							1-12	003-024		2	121	下絵 001-064/ 下絵 001-127
41	暗黒宮	A	119-091				4-1											
41	信西・穴道入り	B	119-037		4巻六波羅行幸の巻	信西・穴道入り										2	122	
41	信西・穴道入り	C															123	手控 001-002
42	鎌倉の悪の子	カット			4巻六波羅行幸の巻	悪源太義平										2	124	
42	鎌倉の悪の子	A	119-071															

連載 回数	週刊誌「週刊朝日」1950年から1957年				『刊行本』1951年から1957年					『画帖』1956年と1959年			『新装本』1960年			月刊時「小説週刊朝日」1972年		
	文章名	挿絵	作品番号	未発表画稿/下絵	巻名	文章名	挿絵	作品番号	未発表画稿/ 下絵	作品番号	未発表/ 下絵	巻名	作品番号	未発表/ 下絵	巻名	掲載番号	未発表/下絵/手控	
42	非時香果	B	119-051		4巻六波羅行幸の巻	非時香果									2	125	下 絵 001-091	
42	非時香果	C	119-084							上32 清盛都返し						126		
43	清盛帰る	カット	119-073		4巻六波羅行幸の巻	清盛帰る									2	127		
43	清盛帰る	A	119-155															
43	権気の冠	B	119-059		4巻六波羅行幸の巻	権気の冠									2	128		
43	女房衣	C		下 絵 002-080/ 下 絵 002-081/ 下 絵 002-099	4巻六波羅行幸の巻	女房衣				上33 天皇殿門					2	129		
44	筆問茶話 一前号までの梗概に代へて	カット													2	130		
44	過去・現在・未来	A			4巻六波羅行幸の巻	過去・現在・未来				上34 六波羅御幸					2			
44	源氏名簿	B	119-066		4巻六波羅行幸の巻	源氏名簿									2	131/132		
45	左折れ右折れ	カット	119-098		4巻六波羅行幸の巻	左折れ右折れ									2	133		
45	左折れ右折れ	A	119-096													134		
45	桜と橋	B	119-147/ 119-148		4巻六波羅行幸の巻	桜と橋	4-2	002-266/ 002-267				1-13	003-025		2	135	下 絵 001-065	
46	保元見物記	カット	119-032		4巻六波羅行幸の巻	平治見物記				上35 合戦見物					2	136		
46	保元見物記	A								上36 八町次郎						137		
46	逆さ兜の事	B			4巻六波羅行幸の巻	逆さ兜の事									2	138	下 絵 001-074	
46	逆さ兜の事	C	119-089													139		
47	雪のあと	カット			4巻六波羅行幸の巻	雪のあと									2	140	下 絵 001-089 (兼141下絵)	
47	雪のあと	カット	119-070													141	下 絵 001-083	
47	狼	A		未発表 119-131	4巻六波羅行幸の巻	狼				上37 餌を争ふ者					2	142	下 絵 001-131/ 下 絵 001-071	
47	狼	B	119-136															
48	前号までの梗概に代へて	カット	119-023												2	143		
48	すすはらひ	A	119-134		4巻六波羅行幸の巻	すすはらひ									2	144		
48	饋鬼国管絃楽	B右左	右 119-125	下 絵 002-199	4巻六波羅行幸の巻	饋鬼国管絃楽				上38・39 清涼饋鬼宴図			未発表 002-156/ 未発表 002-158/ 下 絵 002-170		2	145	下 絵 001-079	
49	落伍	カット	119-067		4巻六波羅行幸の巻	落伍	4-3	119-048							2	146	下 絵 001-100	
49	落伍	A								上40 落ちゆく近江路						147		
49	天意不可思議	B	119-088		4巻六波羅行幸の巻	天意不可思議				上41 野武士と迷子					2	148	下 絵 001-134	
49	天意不可思議	C	119-080							上42 少年頼朝						149		
50	紅梅は心まで紅い	カット1			4巻六波羅行幸の巻	紅梅は心まで紅い									2	150		
50	紅梅は心まで紅い	A								上43 池ノ押尼						151		
50	慈悲喧嘩	B右/左	左 119-156	レイアウト指示書 002-264	4巻六波羅行幸の巻	慈悲喧嘩				上44 一枝幽香					2	152		
50	慈悲喧嘩	C	119-128							上45 頼朝助命の裏								
51	胆大小心	カット	002-316	下 絵 002-146	4巻六波羅行幸の巻	胆大小心				上46 子安観音「常盤給馬」	002-316				2	153		
51	胆大小心	A	119-045															
51	常磐罌子	B	119-145		4巻六波羅行幸の巻	常磐罌子									2	154		
51	常磐罌子	C								上47 牛制伯父常盤は 箱を都へ運ぶ						155		
52	前号までの梗概に代へて 一掲載満一年の機に	カット	119-062												2	156		
52	女ぐるま	A	119-061		4巻六波羅行幸の巻	女ぐるま									2	157		
52	純・常磐罌子	B	119-092		4巻六波羅行幸の巻	純・常磐罌子	4-4	002-052		上48 母子吟味図		2-1	003-007		2	158	下 絵 001-126	
52	純・常磐罌子	C																
53	木乃葉笛	カット	119-065		4巻六波羅行幸の巻	木乃葉笛									2	159		
53	木乃葉笛	A								上50 頼朝遠流								
53	春の話題	B			5巻常盤木の巻	春の話題				上51 善徳園の清盛と朱鼻					2	160・161	下 絵 001-103	

週刊誌「週刊朝日」1950年から1957年				「刊行本」1951年から1957年					「画帖」1956年と1959年			「新装本」1960年			月刊誌「小説週刊朝日」1972年			
連載順数	文章名	挿絵	作品番号	未発表画稿/下絵	巻名	文章名	挿絵	作品番号	未発表画稿/下絵		作品番号	未発表/下絵	巻名	作品番号	未発表/下絵	巻名	掲載番号	未発表/下絵/手控
53	春の話題	C (カット?)															162	下絵 001-125
54	裸天女	カット1			5巻常盤木の巻	裸天女										2	163 (カット6つ)	
54	裸天女	カット2 (4つ)																
54	奔牛	カット3 (4つ)			5巻常盤木の巻	奔牛										2	164	
54	奔牛	C	119-133															
55	忘れ妻	カット	119-144		5巻常盤木の巻	忘れ妻										2	165	
55	忘れ妻	A	119-046														166	
55	春怨	B	119-090		5巻常盤木の巻	春怨							2-2	003-012		2	167	
55	春怨	C	119-056				5-1											
56	からす説法	カット	119-146		5巻常盤木の巻	からす説法										2	168	
56	からす説法	A	119-149														169 (カット2つ)	
56	からす説法	B 右左	右119-097/ 左119-077															
56	石切人生	C			5巻常盤木の巻	石切人生										2	170	
57	説者便覧 前回までの梗概に代へて	カット	119-058													2	171	
57	巡り逢ふ水	A			5巻常盤木の巻	巡り逢ふ水										2	172	
57	巡り逢ふ水	B	119-086														173	
57	悪戯と賽の目	C	119-135		5巻常盤木の巻	悪戯と賽の目										2		
58	男性四十夢多し	カット	119-024		5巻常盤木の巻	男性四十夢多し										2	174	
58	男性四十夢多し	A	119-154														175	
58	壬生雀	B	119-150		5巻常盤木の巻	壬生雀										2	176	
58	曼	C	119-141		5巻常盤木の巻	曼										2		
59	若葉わくら葉	カット			5巻常盤木の巻	若葉わくら葉										2	177	
59	若葉わくら葉	A															178	
59	凡情納経	B	119-040		5巻常盤木の巻	凡情納経	5-2						2-3	003-006		2	179	
59	凡情納経	C	119-081															
60	歌法師	カット	119-153		5巻常盤木の巻	歌法師										2	180	
60	歌法師	A	119-132														181	
60	いづち昔の人行きにけん	B			5巻常盤木の巻	いづち昔の人行きにけん	5-3	002-016					2-4	003-010		3	182	
60	いづち昔の人行きにけん	C	119-053															
61	前写までの梗概	カット	119-082													3	183	
61	天皇恋し給ふ	A 右左	右119-026/ 左119-027		5巻常盤木の巻	天皇恋し給ふ										3	184	
61	二代の後	B	119-055		5巻常盤木の巻	二代の後										3	185	
61	二代の後	C																
62	白拍子町	カット			5巻常盤木の巻	白拍子町	5-4	002-223					2-5	003-008		3	186	
62	白拍子町	A	119-044														187	
62	白拍子町	B		未発表 119-140														
62	乙女子明日香				5巻常盤木の巻	乙女子明日香										3	188	
63	良人譚訴	A	119-042		5巻常盤木の巻	良人譚訴										3	189	
63	良人譚訴	カット1	119-137														190	
63	夢占	B	119-138		5巻常盤木の巻	夢占										3	191	
63	夢占	カット2																
64	簪	カット			5巻常盤木の巻	簪										3	192	下絵 001-082
64	簪	A															193	
64	にらめっこ	B	119-085		5巻常盤木の巻	にらめっこ										3	194	
64	にらめっこ	C																
65	前回までの梗概	カット	119-016													3	195	
65	海の氏神	A	119-057		5巻常盤木の巻	海の氏神										3	196	
65	黍と粟と稗	B	119-034		5巻常盤木の巻	黍と粟と稗										3	197	

連載 原数	週刊誌「週刊朝日」1950年から1957年				『刊行本』1951年から1957年					『画帖』1956年と1959年			『新装本』1960年			月刊誌「小説週刊朝日」1972年		
	文章名	挿絵	作品番号	未発表画稿/下絵	巻名	文章名	挿絵	作品番号	未発表画稿/ 下絵	作品番号	未発表/ 下絵	巻名	作品番号	未発表/ 下絵	巻名	掲載番号	未発表/下絵/手控	
65	茶と粟と神	C																
66	昼顔夕顔	カット			6巻石船の巻	昼顔夕顔									3	198		
66	昼顔夕顔	A														199		
66	鯨	B 右左	右119-123/ 左119-124		6巻石船の巻	鯨									3	200		
66	鯨	—		未発表 002-086												201		
67	市女笠	カット			6巻石船の巻	市女笠									3	202	下 絵 001-076/ 手 控 001-008	
67	市女笠	A	119-019													203		
67	額打論	B			6巻石船の巻	額打論									3	204		
67	額打論	C		未発表 119-107														
68	風声	カット			6巻石船の巻	風声									3	205		
68	風声	A	119-015															
68	清水寺炎上	B	119-108		6巻石船の巻	清水寺炎上									3	206		
68	清水寺炎上	C														207		
69	一学生	カット	119-106		6巻石船の巻	一学生	6-1								3	208		
69	一学生	A	119-021													209		
69	花の繁業	B	119-110		6巻石船の巻	花の繁業									3	210		
69	花の繁業	カット2																
70	前号までの梗概に代へて	カット	119-069													211		
70	妓王	A	119-139		6巻石船の巻	妓王									3	212		
70	君立ち川	B			6巻石船の巻	君立ち川	6-2	002-271				2-6	003-009		3	213		
70	君立ち川	C	119-111															
71	佛御前	カット	119-007		6巻石船の巻	佛御前									3	214/215		
71	佛御前	A			6巻石船の巻	四人尼									3	216		
71	四人尼	B																
71	四人尼	C																
72	蟲一斗	カット	119-036		6巻石船の巻	蟲一斗									3	217		
72	蟲一斗	A	119-035													218		
72	かむろ	B		下 絵 002-139	6巻石船の巻	かむろ									3	219		
73	車あらしひ	カット																
73	車あらしひ	A	119-049	未発表 002-087	6巻石船の巻	車あらしひ									3	220		
73	九条兼實日記	B	119-099													221		
73	九条兼實日記	—		未発表 119-121	6巻石船の巻	九条兼實日記									3	222		
74	軍閥茶話一梗概にひへて一	カット	119-105	未発表 002-225											3	223		
74	宋美人	—			6巻石船の巻	宋美人									3	224		
74	経ヶ島由来	A		未発表 119-103	6巻石船の巻	経ヶ島由来	6-3	002-105							3			
74	経ヶ島由来	B	119-093															
75	孔雀の卵	カット			6巻石船の巻	孔雀の卵									3	225		
75	孔雀の卵	A	119-002	下 絵 002-090												226		
75	孔雀の卵	B																
75	文覚配流	C	119-001		6巻石船の巻	文覚配流									3	227	下 絵 001-007/ 手 控 001-133	
76	裸馬	カット	119-074		6巻石船の巻	よもぎ餅									3	228	手 控 001-006	
76	裸馬	A														229		
76	裸馬	B	119-020		6巻石船の巻	日蔭の君									3			
76	鞍馬の遮那王				6巻石船の巻	鞍馬の遮那王	6-4	002-268						2-7	003-011	3	230	
77	権子文状	カット	119-047		6巻石船の巻	権子文状									3	231		
77	権子文状	A														232		
77	野の歌	B	119-008		6巻石船の巻	野の歌									3	233		
78	九十九折	カット		下 絵 002-084	6巻石船の巻	九十九折									3	234		
78	九十九折	A	119-017															
78	天狗道場	B	119-018		7巻みちのくの巻	天狗道場									3	235/236	235 手 控 001-019	
79	前号までの梗概	カット	119-011												3	237	下 絵 001-128	
79	竜心一途	A	119-012		7巻みちのくの巻	竜心一途									3	238		

連載 順次	週刊誌「週刊朝日」1950年から1957年				『刊行本』1951年から1957年					『画帖』1956年と1959年			『新装本』1960年			月刊時「小説週刊朝日」1972年		
	文章名	挿絵	作品番号	未発表画稿/下絵	巻名	文章名	挿絵	作品番号	未発表画稿/ 下絵	作品番号	未発表/ 下絵	巻名	作品番号	未発表/ 下絵	巻名	掲載番号	未発表/下絵/手控	
79	山祭り	B	119-009		7巻みちのくの巻	山祭り									3	239		
80	白粉まだら	カット			7巻みちのくの巻	白粉まだら				上82 鞍馬祭り					3	240		
80	白粉まだら	A	119-031													241		
80	大天井	B			7巻みちのくの巻	大天井	7-1	002-040		上83 牛若脱走		2-8	003-014		3	242	手控 001-132	
81	吉次隠し	カット	119-087		7巻みちのくの巻	吉次隠し									3	243		
81	花龍歌	A	119-033	未発表 119-038	7巻みちのくの巻	花龍歌									3	244/245	下絵 001-104	
82	昔囃五枚の楯	カット	119-039		7巻みちのくの巻	昔囃五枚の楯									3	246		
82	昔囃五枚の楯	A	119-029													247		
82	阿修羅の子	B			7巻みちのくの巻	阿修羅の子				上84 佛師の工房					3	248		
83	軍閥茶話一梗概にへて一	カット													3	249		
83	悲母	A	119-122		7巻みちのくの巻	悲母									3	250		
83	燻	B			7巻みちのくの巻	燻				上85 常盤と牛若		2-9	003-013		3	251		
84	先物買ひ	カット	119-078		7巻みちのくの巻	先物買ひ									3	252		
84	熊坂	A		未発表 119-041	7巻みちのくの巻	熊坂				上86 熊坂					3	253/254	253 下絵 001-190	
85	吉日	カット	119-100		7巻みちのくの巻	吉日	7-2	002-037							3	255/256		
85	足柄越え	A	119-113		7巻みちのくの巻	足柄越え									3	257		
85	足柄越え	B	119-109															
86	草の実覚	カット	119-102		7巻みちのくの巻	草の実覚									3	258/259		
86	醜女せめ	A	119-117		7巻みちのくの巻	醜女せめ									3	260		
86	浅草寺夜泊	B		未発表 002-091/ 下絵 002-092	7巻みちのくの巻	浅草寺夜泊				上87 足柄山怪宴図					3			
87	軍閥茶話 一前号までの梗概にへて一	カット	119-119												3	261		
87	牧の仔馬	A	119-079		7巻みちのくの巻	牧の仔馬	7-3	002-107							3	262		
87	春風坂東歌	B	119-052		7巻みちのくの巻	春風坂東歌				上88 春風坂東歌		未発表 002-130	2-10	003-005	3	263		
88	昨日の船	カット			7巻みちのくの巻	昨日の船									3	264/265		
88	廻りぞ会はん	A		未発表 119-152	7巻みちのくの巻	廻りぞ会はん				上89 世路の一縁					3	266		
89	比企の局	カット	119-028	下絵 002-246	7巻みちのくの巻	比企の局									4	267		
89	枯野の青侍たち	A	119-115		7巻みちのくの巻	枯野の青侍たち									4			
89	ゆかり紫	B	119-143		7巻みちのくの巻	ゆかり紫									4	268/269	268 下絵 001-129	
90	巖信・忠信	カット	119-025		7巻みちのくの巻	巖信・忠信									4	270		
90	巖信・忠信	A	119-043		7巻みちのくの巻	奇縁と奇なる日									4	271/272		
90	奇縁と奇なる日	B		下絵 002-096														
91	鳥かご嫌ひ	カット			7巻みちのくの巻	鳥かご嫌ひ									4	273/274		
91	黄金曼陀羅	A	119-075	未発表 002-089	7巻みちのくの巻	黄金曼陀羅									4			
91	藤原三代	B			7巻みちのくの巻	藤原三代	7-4	002-108							4	275		
91	寒流暖流				7巻みちのくの巻	寒流暖流									4			
92	初曆・治承元年	カット	119-112	未発表 119-101/ 未発表 119-116/ 下絵 119-114	8巻火の国の巻	初曆・治承元年									4	276		
92	伊豆の文覚	A	119-151		8巻火の国の巻	鈍									4	277		
92	頼朝のほくろ	B			8巻火の国の巻	頼朝のほくろ				上92 頼朝女難相					4	278		
93	政子	カット	119-126		8巻火の国の巻	政子						3-1	003-033		4	279	手控 001-130	
93	政子	A					8-1	002-053		上93 夜々の政子						280		
93	政子	B																
93	壺中模索				8巻火の国の巻	蟲の垂衣									4			
94	市に出た馬	カット	119-006		8巻火の国の巻	市に出た馬									4	281		
94	初対面	A	119-003		8巻火の国の巻	初対面	8-2	002-014							4	282		
94	初対面	B								上94 伊豆の山寺						283		
95	二月だより 前号までの梗概 に代へて	カット													4	284		
95	佐佐木兄弟	—			8巻火の国の巻	佐佐木兄弟				上96 佐佐木兄弟					4	285		
95	都だより	A			8巻火の国の巻	亀の前									4			
95	雲は遊んでゐる	B	119-095		8巻火の国の巻	雲は遊んでゐる									4	286		

連載 原数	週刊誌「週刊朝日」1950年から1957年				『刊行本』1951年から1957年					『面帖』1956年と1959年			『新装本』1960年			月刊誌「小説週刊朝日」1972年		
	文章名	挿絵	作品番号	未発表画稿/下絵	巻名	文章名	挿絵	作品番号	未発表画稿/下絵	作品番号	未発表/下絵	巻名	作品番号	未発表/下絵	巻名	掲載番号	未発表/下絵/手控	
96	姉君と妹たち	カット			8巻火の国の巻	あねいもと				上97 北条時政					4	287/288		
96	男親	A	119-129		8巻火の国の巻	男親									4	289		
96	男親	B	119-083															
97	彼女の処理	カット	119-120		8巻火の国の巻	彼女の処理						3-2	003-029		4	290		
97	彼女の処理	A					8-3	119-157		上98 政子とその父						291		
97	冬山は燃えやすい	B	119-068		8巻火の国の巻	冬山は燃えやすい									4	292		
98	火の国の花嫁	カット	119-010		8巻火の国の巻	火の国の花嫁									4	293/294		
98	夜の富士	A	119-005		8巻火の国の巻	夜の富士									4	295		
98	夜の富士	B								上99 花嫁掠奪								
99	前号までの梗概と、これから のこと	カット	119-004												4	296		
99	いつくしまの内侍	A	119-013		8巻火の国の巻	いつくしまの内侍									4	297		
99	雪の御所	B	119-094		8巻火の国の巻	雪の御所									4	298		
100	山門猿	カット		下 絵 002-093/ 下 絵 002-094	8巻火の国の巻	山門猿									4	299	F 絵 001-088	
100	土下座陣	A			8巻火の国の巻	土下座陣									4	300/301	301 下 絵 001-087	
100	『方丈記』断片	B			8巻火の国の巻	『方丈記』断片				上100 乱僧暴兵					4			
101	菖蒲葺き	カット			8巻火の国の巻	菖蒲葺き									4	302/303		
101	菖蒲葺き	A								上101 驢に乗る頼政								
101	虎口	B			8巻火の国の巻	虎口				上102 戦禍の都					4	304		
102	座主流し	カット			8巻火の国の巻	座主流し									4	305		
102	怒め坊	A			8巻火の国の巻	怒め坊									4	306	F 絵 001-084	
102	怒め坊	B														307	下 絵 001-085	
103	弁慶下山記	カット			8巻火の国の巻	弁慶下山記						3-3	003-035		4	308/309		
103	人里	A			8巻火の国の巻	人里	8-4	002-054		上103 吉木法蓮園					4	310		
103	人里	B																
104	筆間茶話 一連載二周年にさいして一	カット													4	311		
104	百面相	A 右上	119-030		8巻火の国の巻	百面相									4	312		
104	百面相	A																
104	鬼若童子	-			8巻火の国の巻	鬼若童子									4	313		
105	おん猿栗	A			9巻御産の巻	おん猿栗						3-4	003-031		4	314		
105	おん猿栗	B					9-1			上104 鹿ヶ谷密会						315		
105	大野の火放け	C			9巻御産の巻	大野の火放け									4	316		
106	鹿ヶ谷始末	カット			9巻御産の巻	鹿ヶ谷始末									4	317	手 控 001-009	
106	西光斬られ	A			9巻御産の巻	西光斬られ				上105 新大納言捕縛					4	318		
106	西光斬られ	B														319		
107	小松重盛	A			9巻御産の巻	小松重盛									4	320		
107	「教訓」の事	B			9巻御産の巻	「教訓」の事									4	321		
108	春風使葉—近畿の旅先から—	カット													4	322		
108	鶯鶯吟	A			9巻御産の巻	鶯鶯吟									4	323		
108	鬼界ヶ島	B			9巻御産の巻	鬼界ヶ島									4	324		
109	俊寛と・やどかり	カット			9巻御産の巻	俊寛と・やどかり									4	325		
109	足摺	A			9巻御産の巻	足摺				上106 鬼界ヶ島の公卿流人					4	326/327		
110	御産絵巻	カット			9巻御産の巻	御産絵巻	9-2	002-270				3-5	003-034		4	328		
110	鳴弦	A			9巻御産の巻	鳴弦				上107 中宮御産氣					4	329	下 絵 001-093	
110	鳴弦	B														330		
111	那智の小机	カット			9巻御産の巻	那智の小机									4	331		
111	那智の小机	A								上108 九郎那智親溷園						332	手 控 001-020	
111	新宮十郎	B			9巻御産の巻	新宮十郎									4	333		
112	前号までの梗概	カット													4	334		
112	一つの白帆	-			9巻御産の巻	一つの白帆									4	335		
112	偽せ義経	A			9巻御産の巻	偽せ義経									4	336	下 絵 001-090	

連載 順数	週刊誌「週刊朝日」1950年から1957年				『刊行本』1951年から1957年					『画帖』1956年と1959年			『新基本』1960年			月刊誌「小説週刊朝日」1972年		
	文章名	挿絵	作品番号	未発表面稿/下絵	巻名	文章名	挿絵	作品番号	未発表面稿/ /下絵	作品番号	未発表/ 下絵	巻名	作品番号	未発表/ 下絵	巻名	掲載番号	未発表/下絵/手控	
112	偽せ義経	B																
113	鮫女	カット			9巻御産の巻	鮫女				上109 べんけいの母				4	337			
113	大宋水鳥図式	A			9巻御産の巻	大宋水鳥図式								4				
113	雁の驚き	B			9巻御産の巻	雁の驚き								4	338/339			
114	天のとおりふね	カット			9巻御産の巻	天のとおりふね	9-3	002-043						4	340			
114	大のとおりふね	A								上110 熊野ふね								
114	江の三郎	B			9巻御産の巻	江ノ三郎								4	341/342			
115	とある森姦	カット		未発表 002-082	9巻御産の巻	とある森姦								4	343			
115	とある森姦	A		下 絵 002-088						上111 江の三郎					344			
115	燈籠大臣	B			9巻御産の巻	燈籠大臣				上112 平 重盛				4	345	下 絵 001-095		
116	みちか夜の門	カット			9巻御産の巻	みちか夜の門								4	346			
116	みちか夜の門	A													347			
116	蓮花の怪	B			9巻御産の巻	蓮花の怪								4	348			
117	飯住居	A			9巻御産の巻	飯住居								5	349			
117	飯住居	B																
117	平大納言時忠	—			9巻御産の巻	平大納言時忠								5	350			
117	出た答へ	C			9巻御産の巻	出た答へ	9-4	002-041						5				
118	唾蟬	カット			9巻御産の巻	唾蟬								5	351			
118	唾蟬	A													352	下 絵 001-080		
118	堅田の湖賊	B			9巻御産の巻	堅田の湖賊								5	353			
119	策士	カット			10巻りんねの巻き	策士								5	354	下 絵 001-123		
119	策士	A													355			
119	結び文	B			10巻りんねの巻き	結び文								5	356			
120	形影	カット			10巻りんねの巻き	形影								5	357			
120	木の下	A			10巻りんねの巻き	木の下								5	358	下 絵 001-187/ 下 絵 001-223/ 下 絵 001-229/ 手 控 001-051		
120	驢に乗る人	B			10巻りんねの巻き	驢に乗る人					3-6	003-030		5	359			
121	窓辺雑草 —前回までの梗概に代へて	カット					10-1							5	360			
121	老兵晩夢	A			10巻りんねの巻き	老兵晩夢								5	361			
121	官倉の鍵	B			10巻りんねの巻き	官倉の鍵								5	362			
122	若き秋・老いの秋	A			10巻りんねの巻き	若き秋・老いの秋								5	363/364			
122	高野川	B			10巻りんねの巻き	高野川								5	365			
123	反つ南	カット			10巻りんねの巻き	反つ南								5	366			
123	反つ南	A													367			
123	高札けつり	B			10巻りんねの巻き	高札けつり								5	368			
124	二人義経	カット			10巻りんねの巻き	二人義経	10-2	002-046						5	369			
124	二人義経	A													370			
124	八方やぶれ	B			10巻りんねの巻き	八方やぶれ								5	371			
125	使者	カット			10巻りんねの巻き	坂東なまり								5	372			
125	使者	A													373			
125	人の子なれば	—			10巻りんねの巻き	人の子なれば								5	374			
126	山房雜記 —前回までの梗概に代へて	カット												5	375			
126	涅槃の宿	A右			10巻りんねの巻き	涅槃の宿				上114 平大納言家の客				5	376			
126	涅槃の宿	B左																
126	涅槃の宿	カット																
126	夕花	C			10巻りんねの巻き	夕花								5	377			
127	公達つどひ	カット			10巻りんねの巻き	公達つどひ								5	378			
127	公達つどひ	A																
127	静	B			10巻りんねの巻き	静	10-3	002-045		上115 義経と夕花		3-7	003-032	5	379/380			
128	あわれ月夜かな	カット			10巻りんねの巻き	あわれ月夜かな								5	381			
128	あわれ月夜かな	A		002-313						上117 五条橋					382			
128	泣き弁慶	B			10巻りんねの巻き	泣き弁慶				上116 泣き弁慶				5	383			

連載 順数	週刊誌「週刊朝日」1950年から1957年				『刊行本』1951年から1957年					『画帖』1956年と1959年			『新装本』1960年			月刊時「小説週刊朝日」1972年		
	文章名	挿絵	作品番号	未発表画稿/下絵	巻名	文章名	挿絵	作品番号	未発表画稿/下絵	作品番号	未発表/下絵	巻名	作品番号	未発表/下絵	巻名	掲載番号	未発表/下絵/手控	
129	地震草紙	カット			10巻りんねの巻き	地震草紙									5	384		
129	地震草紙	A																
129	「雪の御所」余震	B			10巻りんねの巻き	「雪の御所」余震									5	385/386		
130	杖杵十使 一前回までの梗概に代へて	カット		下 絵 002-249											5	387		
130	法印問答	A右			10巻りんねの巻き	法印問答									5	388		
130	法印問答	B左																
130	後白河遷し	C			10巻りんねの巻き	後白河遷し									5	389		
131	灸	カット			10巻りんねの巻き	灸									5	390/391		
131	池殿成敗	A			10巻りんねの巻き	池殿成敗									5	392		
131	池殿成敗	B																
132	幽宮詩鶯記	カット			10巻りんねの巻き	幽宮詩鶯記						4-1	003-027		5	393		
132	幽宮詩鶯記	A					10-4	002-145		上118 高倉院幽所の 父皇を訪ふ						394		
132	びっこ	B			10巻りんねの巻き	びっこ									5	395		
132	びっこ	C								上119 秘門夜警図								
133	忘れ人	カット			10巻りんねの巻き	忘れ人									5	396/397		
133	鴉鳴 (けいめい)	A			10巻りんねの巻き	鴉鳴				上120 密議に明ける夜					5	398	下 絵 001-214	
133	鴉鳴	B																
134	前回までの梗概に代へて	カット													5	399	手 控 001-047	
134	三井寺入り	A			11巻断橋の巻	三井寺入り									5	400		
134	船 (ぬえ)	B			11巻断橋の巻	船									5	401		
135	笛と蛇	カット			11巻断橋の巻	笛と蛇									5	402		
135	笛と蛇	A														403		
135	八十字治川へ (やそうじがわ)	B		下 絵 002-129	11巻断橋の巻	八十字治川へ	11-1	002-106							5	404		
136	断橋 (たんきょう)	カット		未発表 002-128	11巻断橋の巻	断橋									5	405		
136	馬いかだ	A			11巻断橋の巻	馬いかだ				上121 一来法師					5	406		
136	馬いかだ	B														407	手 控 001-050	
137	楚歌	カット			11巻断橋の巻	楚歌									5	408/409	409 手 控 001-052	
137	都遣し (みやこうつし)	A			11巻断橋の巻	都遣し									5	410		
137	都遣し (みやこうつし)	B								上122 敗王と敗将								
138	走り湯の君	カット			11巻断橋の巻	走り湯の君									5	411		
138	走り湯の君	A																
138	恋の果の朝	B			11巻断橋の巻	恋の果の朝	11-2	002-149		上123 神林の恋		4-2	003-003		5	412/413		
139	雷源紀行 一前回までの梗概に代へて	カット													5	414		
139	紙燭	A			11巻断橋の巻	紙燭												
139	御家人集め	B			11巻断橋の巻	御家人集め				上124 時政参陣					5	415/416	416 下 絵 001-136	
140	夜雨譚々 (やうせうせう)	カット			11巻断橋の巻	夜雨譚々									5	417		
140	草手假名 (あしてかな)	A			11巻断橋の巻	草手假名									5	418		
140	草手假名 (あしてかな)	B														419		
141	三島夜祭り	カット			11巻断橋の巻	三島夜祭り									5	420		
141	三島夜祭り	A																
141	土倉間闘	B			11巻断橋の巻	土倉間闘									5	421/422		
142	少年根	カット			11巻断橋の巻	少年根									5	423		
142	少年根	A								上125 旗上げ小勢						424		
142	風孕む	B			11巻断橋の巻	風孕む									5	425		
143	新春平凡一前回までの梗概に 代へて	カット													5	426		
143	石橋山	A右			11巻断橋の巻	石橋山	11-3	右 002-035/ 左 002-048							5	427		
143	石橋山	B左								上126 石橋山合戦								
143	佐奈田余一	C			11巻断橋の巻	佐奈田余一									5	428		
144	朝の来ない夜はない	カット			11巻断橋の巻	朝の来ない夜はない									5	429		

連載 順数	週刊誌「週刊朝日」1950年から1957年				『刊行本』1951年から1957年					『画帖』1956年と1959年			『新装本』1960年			月刊時「小説週刊朝日」1972年		
	文章名	挿絵	作品番号	未発表画稿/下絵	巻名	文章名	挿絵	作品番号	未発表画稿/ 下絵	作品番号	未発表/ 下絵	巻名	作品番号	未発表/ 下絵	巻名	掲載番号	未発表/下絵/手控	
144	朝の来ない夜はない	A										上127 洞窟之頼朝				430	下 絵 001-158	
144	鳩	B			11巻断橋の巻	鳩	11-4					4-3	003-026		5	431		
145	伊豆山月騒記	カット			11巻断橋の巻	伊豆山月騒記									6	432		
145	伊豆山月騒記	A														(433)	未発表 001-043 (ただし、対応する絵はない)	
145	彼岸と此岸(このきし)	B			11巻断橋の巻	彼岸と此岸									6	434		
146	ぼらぼら千鳥	カット			11巻断橋の巻	ぼらぼら千鳥									6	435		
146	ぼらぼら千鳥	A														436		
146	鉦虱	B			11巻断橋の巻	鉦虱									6	437		
147	中立園	カット			12巻かまくら殿の巻	中立園					上128 老土豪				6	438		
147	中立園	A																
147	日和見くづれ	B			12巻かまくら殿の巻	日和見くづれ									6	439		
148	北上	カット			12巻かまくら殿の巻	北上									6	440		
148	北上	A																
148	広常参陣(ひろつねさんじん)	B			12巻かまくら殿の巻	広常参陣	12-1	002-019							6	441/442		
149	野彦	カット			12巻かまくら殿の巻	野彦									6	443	下 絵 001-124	
149	広常参陣	A														444		
149	月見る人々	B			12巻かまくら殿の巻	月見る人々					上129 月を眺ちらふ人				6	445		
150	怪異譚(かいいたん)	カット			12巻かまくら殿の巻	怪異譚									6	446		
150	怪異譚	A																
150	征鈴	B			12巻かまくら殿の巻	征鈴						4-4	003-004		6	447/448		
151	筆間茶話 一前回までの梗概に代へて	カット													6	449		
151	斎藤別当宝盛	A			12巻かまくら殿の巻	斎藤別当宝盛									6	450		
151	遊女軍(ゆうじょいくさ)	B			12巻かまくら殿の巻	風流陣					上130 平軍東下				6	451		
152	御台所返り (みだいどころかえり)	カット			12巻かまくら殿の巻	御台所返り									6	452		
152	けだもの処分	A			12巻かまくら殿の巻	けだもの処分									6	453		
152	水鳥記(すいてうき)	B			12巻かまくら殿の巻	水鳥記					上131 富士川敗走				6	454		
153	権盛不戦頼末 (これもりふせんてんまつ)	カット			12巻かまくら殿の巻	権盛不戦頼末									6	455		
153	権盛不戦頼末	A									上133 黄瀬川陣					456		
153	千々に思ひを(ちちに)	B			12巻かまくら殿の巻	千々に思ひを					上134 義経兄を訪ふ				6	457		
154	黄瀬川対面(きせがわ)	カット			12巻かまくら殿の巻	黄瀬川対面	12-2	002-018				4-5	003-001		6	458		
154	かまくら日誌	A			12巻かまくら殿の巻	かまくら日誌									6	459		
154	かまくら日誌	B														460		
155	九郎殿衆	カット			12巻かまくら殿の巻	九郎殿衆									6	461		
155	九郎殿衆	A									上135 かまくら喧嘩					462		
155	創府手斧屑集 (そうふてうなくづしゅ)	B			12巻かまくら殿の巻	創府手斧屑集					上136 鶴ヶ岡上棟式				6	463/464		
156	前回までの梗概 一連載満3年にさいして	カット									上137 荒夜図				6	465		
156	死の商隊	A			12巻かまくら殿の巻	死の商隊									6	466		
156	露衣風心(ろいふうしん)	B			12巻かまくら殿の巻	露衣風心									6	467		
157	夢野の夢	カット			12巻かまくら殿の巻	夢野の夢									6	468/469	469 下 絵 001-098	
157	龍虎相泣く	A			12巻かまくら殿の巻	龍虎相泣く									6	470		
157	龍虎相泣く	B																
158	浮巢の都	カット			12巻かまくら殿の巻	浮巢の都	12-3	002-020				4-6	003-045		6	471		
158	浮巢の都(うきすのみやこ)	A													6	472		
158	鬨切り事件	B			12巻かまくら殿の巻	鬨切り事件					上138 衆虎弄牛				6	473		
159	馬と鹿	カット			12巻かまくら殿の巻	馬と鹿									6	474		
159	馬と鹿	A右									上139 奈良坂あたり					475		
159	馬と鹿	B左		下 絵 002-073/ 下 絵 002-074			12-4	002-110			上140 大佛殿炎上							

連載 順数	週刊誌「週刊朝日」1950年から1957年				「刊行本」1951年から1957年				「前帖」1956年と1959年			「新装本」1960年			月刊時「小説週刊朝日」1972年		
	文章名	挿絵	作品番号	未発表画稿/下絵	巻名	文章名	挿絵	作品番号	未発表画稿 /下絵	作品番号	未発表/ 下絵	巻名	作品番号	未発表/ 下絵	巻名	掲載番号	未発表/下絵/手控
159	肉身大仏・嘲人間愚 (しゃくしんたいぶつ・ わらうにんげんぐ)	C			12巻かまくら殿の巻	肉身大仏・嘲人間愚						4-7	003-015		6	476	下 絵 001-049/ 下 絵 001-206
160	耳に飼う蝉	カット			12巻かまくら殿の巻	耳に飼う蝉				上141 一灰図				6	477		
160	耳に飼う蝉	A													478		
160	春無きおん国母 (こくほ)	B		下 絵 002-202	12巻かまくら殿の巻	春無きおん国母				上142 嵯峨野の小督				6	479		
161	葵と義仲	カット			13巻三界の巻	葵と義仲								6	480		
161	葵と義仲	A	う							上143 湯御所の葵					481	下 絵 001-212	
161	君見ずや	B			13巻三界の巻	君見ずや								6	482	手 控 001-042	
162	大地の乳	カット			13巻三界の巻	大地の乳				上146 木曾谷				6	483	下 絵 001-203	
162	大夫坊牛鞋録 (だいいんぼうぎょうちろく)	A			13巻三界の巻	大夫坊牛鞋録				上145 木曾の駒王				6	484		
162	岩茸と運は危い所にある	B			13巻三界の巻	岩茸と運は危い所にある								6	485		
163	權守返上	カット			13巻三界の巻	權守返上								6	486		
163	巴と葵	A			13巻三界の巻	巴と葵								6	487	下 絵 001-070/ 手 控 001-056	
163	巴と葵	B													488		
164	木曾殿様ぎ	カット			13巻三界の巻	木曾殿様ぎ	13-1	002-017						6	489		
164	木曾殿様ぎ	A「葵」													490		
164	異聞類々 (いぶんひんひん)	B「巴」			13巻三界の巻	異聞類々								6	491		
164	異聞類々 (いぶんひんひん)	C								上144 義仲酔態図							
165	軍閥茶話一前回までの梗概	カット								上147 玉葉筆者像				6	492		
165	「玉葉」筆者	—			13巻三界の巻	「玉葉」筆者								6			
165	右京大夫がよひ	A			13巻三界の巻	右京大夫がよひ	13-2			上148 右京大夫ノ鳥の恋人		4-8	003-028	6	493		
165	入道発病	B			13巻三界の巻	入道発病								6	494		
166	二位どの看護	カット			13巻三界の巻	二位どの看護								6	495		
166	二位どの看護	A															
166	医師診議	B			13巻三界の巻	医師診議				上149 相国病み給ふ				6	496/497		
167	火の病	カット 「業」			13巻三界の巻	火の病								6	498	498 手 控 001-046	
167	火の病	A															
167	無事は貴人 (ふぶじこれきじん)	B			13巻三界の巻	無事は貴人	13-3					4-9	003-002	6	499/500	499 下 絵 001-213	
168	軍閥茶話一前回までの梗概に代へて	カット												6	501		
168	麻烏拝診 (あさとりはいじん)	A			13巻三界の巻	麻烏拝診								6	502/503		
168	白眼子 (はくかんし)	B			13巻三界の巻	白眼子								6			
169	往生三界図	カット			13巻三界の巻	往生三界図								6	504		
169	往生三界図	A													505		
169	三界図その二	B			13巻三界の巻	三界図その二	13-4	002-122						6	506	手 控 001-053	
170	征野管絃回向 (せいのかんげんえこう)	カット			13巻三界の巻	征野管絃回向								6	507/508		
170	叔父御と甥君	A			13巻三界の巻	叔父御と甥君								6	509		
170	墨股わたし	B			13巻三界の巻	墨股わたし								6			
171	渦の中	カット			13巻三界の巻	渦の中								6	510・511		
171	山岳遁走	A			13巻三界の巻	山岳遁走								6			
171	踊りの輪	B			13巻三界の巻	踊りの輪								6	512	下 絵 001-204	
172	軍閥茶話一前回までの梗概に代へて	カット												6	513		
172	朝めし前	A			13巻三界の巻	朝めし前								6			
172	露団々	—			13巻三界の巻	露團々								6	514		
172	聞ゆる木曾を眼に見ばや	B			13巻三界の巻	聞ゆる木曾を眼に見ばや								6	515		

連載 順数	週刊誌「週刊朝日」1950年から1957年				「刊行本」1951年から1957年				「画帖」1956年と1959年			「新装本」1960年		月刊時「小説週刊朝日」1972年		
	文章名	挿絵	作品番号	未発表画稿/下絵	巻名	文章名	挿絵	作品番号	未発表画稿/ 下絵	作品番号	未発表/ 下絵	巻名	作品番号 下絵	巻名	掲載番号	未発表/下絵/手控
173	謎めく脚	カット「江ノ島弁才夫」			14巻くりからの巻	謎めく脚								6	516	
173	弁財天喧嘩	A			14巻くりからの巻	弁財天喧嘩								6	517	
173	内証(ないこう)	B			14巻くりからの巻	内証								6	518	
174	揺れ山吹	カット			14巻くりからの巻	揺れ山吹	14-1	002-038				5-1	003-044	7	519	手控 001-044
174	揺れ山吹	A													520	下絵 001-207
174	質子	B			14巻くりからの巻	質子								7	521	
175	御車返し	カット			14巻くりからの巻	御車返し								7	522	
175	御車返し	A													523	
175	龍爪	B			14巻くりからの巻	龍爪								7	524	
176	仙童	カット			14巻くりからの巻	仙童								7	525	
176	仙童	A								F1 竹生島					526	
176	虹に染まる手	B			14巻くりからの巻	虹に染まる手								7	527	手控 001-045
177	軍閥茶話 一回までの梗概に代へて	カット												7	528	
177	耳遠き武者	A			14巻くりからの巻	耳遠き武者				F2 耳遠き武者				7	529	下絵 001-139
177	鎌合戦(ひうちかっせん)	B右			14巻くりからの巻	鎌合戦								7	530	
177	鎌合戦(ひうちかっせん)	C左														
178	にらみあひ	カット			14巻くりからの巻	にらみあひ								7	531	
178	にらみあひ	A								F3 美しき奴隷						
178	美しき奴隷	B			14巻くりからの巻	美しき奴隷								7	532/533	
179	俱利伽羅迷路	カット			14巻くりからの巻	俱利伽羅迷路								7	534	下絵 001-208
179	俱利伽羅迷路	A														
179	火牛	B右			14巻くりからの巻	火牛	14-2	002-109/ 002-111					未発表 003-036	7	535	
179	火牛	C左													536	下絵 001-055/ 手控 001-058
180	平弓禍(はんきゅうか)	カット			14巻くりからの巻	平弓禍								7	537/538	
180	将軍と長き黒髪	A			14巻くりからの巻	将軍と長き黒髪								7	539	
180	将軍と長き黒髪	B														
181	軍閥茶話 一回までの梗概に代へて	カット														
181	軍婢	A	未発表 002-250		14巻くりからの巻	軍婢								7	540	
181	若やぎの壺	B			14巻くりからの巻	若やぎの壺								7	542	下絵 001-215/ 下絵 001-217
182	安宅・藤原	カット			14巻くりからの巻	安宅・藤原								7	543	
182	実盛最後	A			14巻くりからの巻	実盛最期	14-3	002-039	未発表 002-064					7	544	
182	実盛最後	B													545	
183	入洛布石	カット			14巻くりからの巻	入洛布石								7	546	
183	入洛布石	A													547	
183	閨房陣(けいぼうじん)	B			14巻くりからの巻	閨房陣								7	548	
184	堂上堂下(どうじょうどうか)	カット			14巻くりからの巻	堂上堂下								7	549	
184	堂上堂下(どうじょうどうか)	A													550	未発表 001-048
184	痴夫と剛妻(ちふとごうさい)	B			14巻くりからの巻	痴夫と剛妻								7	551	下絵 001-073/ 下絵 001-157/ 下絵 001-163/ 下絵 001-216
185	軍閥茶話 一回までの梗概に代へて	カット														
185	彼の国造り	A			14巻くりからの巻	彼の国造り	14-4	002-138				5-2	003-043	7	553	手控 001-026
185	前夜相	B			14巻くりからの巻	前夜相								7	554	
186	おん母建礼門院	カット			15巻蜻蛉の巻	おん母建礼門院								7	555/556	
186	主上都落ち(しゅじょうみやこおい)	A			15巻蜻蛉の巻	主上都落ち								7	557	
186	主上都落ち	B														
187	古巣焼き	カット			15巻蜻蛉の巻	古巣焼き								7	558	

連載 回数	週刊誌「週刊朝日」1950年から1957年				『刊行本』1951年から1957年				『画帖』1956年と1959年			『新装本』1960年			月刊時「小説週刊朝日」1972年		
	文章名	挿絵	作品番号	未発表画稿/下絵	巻名	文章名	挿絵	作品番号	未発表画稿 /下絵	作品番号	未発表/ 下絵	巻名	作品番号	未発表/ 下絵	巻名	掲載番号	未発表/下絵/手控
187	古巣焼き	A														559	
187	維盛都落ち	B			15巻蜻蛉の巻	維盛都落ち									7	560	
188	読み人知らず	カット			15巻蜻蛉の巻	読み人知らず	15-1	002-036				5-3	003-042		7	561	
188	読み人知らず	A														562	下絵 001-218
188	「青山」別離(せいざんべつり)	B			15巻蜻蛉の巻	「青山」別離									7	563	
189	池殿引返し	カット			15巻蜻蛉の巻	池殿引返し									7	564	
189	池殿引返し	A														565	手控 001-054/ 手控 001-057
189	右大臣殿のお人よき	B			15巻蜻蛉の巻	南がゆいお人									7	566	
190	軍間茶話 —前回までの梗概に代へて	カット													7	567	
190	赤とんぼ	A			15巻蜻蛉の巻	赤とんぼ									7	568	
190	幕前管絃講 (ぼぜんかんげんこう)	B右			15巻蜻蛉の巻	幕前管絃講	15-2	002-058							7	569	
190	幕前管絃講	C左															
191	政変後白河記	カット			15巻蜻蛉の巻	政変後白河記									7	570	
191	政変後白河記	A														571	
191	義仲人洛	B			15巻蜻蛉の巻	義仲人洛									7	572	
192	公家座の眼	カット			15巻蜻蛉の巻	公家座の眼	15-3	002-056				5-4	003-041		7	573	
192	公家座の眼	A														574	
192	公家座の眼	カット2															
192	やどり木	B			15巻蜻蛉の巻	やどり木									7	575	
193	万戸の戦き (ばんこのをののき)	カット			15巻蜻蛉の巻	万戸の戦き									7	576	
193	万戸の戦き	A														577	(4カット)
193	肉縄 (にくじょう)	B			15巻蜻蛉の巻	肉縄									7	578	
193	肉縄 (にくじょう)	—															
194	軍間茶話 —前回までの梗概に代へて	カット													7	579	
194	軍間茶話 —前回までの梗概に代へて	A右															
194	軍間茶話 —前回までの梗概に代へて	B左															
194	朝日将軍	C右			15巻蜻蛉の巻	朝日将軍									7	580	下絵 001-219
194	朝日将軍	D左														581	
194	朝日将軍	E															
195	冬姫	カット			15巻蜻蛉の巻	冬姫	15-4	002-057							7	582	下絵 001-072
195	冬姫	A右														583	
195	冬姫	B左															
195	猫間の中納言	C1			15巻蜻蛉の巻	猫間の中納言						5-5	003-040		7	584	
195	猫間の中納言	C2															
195	猫間の中納言	C3															
195	猫間の中納言	D		未発表002-239													
196	御鞭 (ぎょべん)	カット		未発表 002-240/ レイアウト指示書 002-263	15巻蜻蛉の巻	御鞭									7	585	
196	御鞭	A		レイアウト指示書 002-263													
196	御鞭	B		下絵 002-224/ レイアウト指示書 002-263													
196	二人の小天子	C		レイアウト指示書 002-263	15巻蜻蛉の巻	二人の小天子									7	586	下絵 001-162/ 手控 001-023
196	二人の小天子	D		レイアウト指示書 002-263												587	下絵 001-022/ 下絵 001-078
196	二人の小天子	E		レイアウト指示書 002-263													
197	ただよふ平家	カット			15巻蜻蛉の巻	ただよふ平家									7	588	

連載 順数	週刊誌「週刊朝日」1950年から1957年				「刊行本」1951年から1957年					「前帖」1956年と1959年			「新装本」1960年			月刊誌「小説週刊朝日」1972年		
	文章名	挿絵	作品番号	未発表面稿/下絵	巻名	文章名	挿絵	作品番号	未発表面稿/ 下絵	作品番号	未発表/ 下絵	巻名	作品番号	未発表/ 下絵	巻名	掲載番号	未発表/下絵/手控	
197	ただよふ平家	カット2														589 (3カット)		
197	ただよふ平家	カット3																
197	ただよふ平家	カット4																
197	ただよふ平家	A右																
197	ただよふ平家	B左																
197	義仲西下	カット5			15巻蜻蛉の巻	宇佐祈願								7	590			
197	義仲西下	カット6																
197	義仲西下	カット7																
198	水島決戦	カット		レイアウト指示書 002-274	15巻蜻蛉の巻	水島決戦								7	591	下絵 001-021		
198	水島決戦	A		レイアウト指示書 002-275											592			
198	水島決戦	B		レイアウト指示書 002-276														
198	虜囚の村	C		レイアウト指示書 002-277	15巻蜻蛉の巻	虜囚の村								7	593			
198	虜囚の村	D		レイアウト指示書 002-278											594			
199	軍間茶話 一前回までの梗概に代へて	カット												7	595			
199	願志の帳(しんいのとほり)	A			15巻蜻蛉の巻	願志の帳								7	596			
199	願志の帳	B							F15 葵と巴									
199	質子消息(ちししょうそく)	C			15巻蜻蛉の巻	質子消息								7	597			
200	翻られ孤児	カット			15巻蜻蛉の巻	翻られ孤児								7	598			
200	翻られ孤児	A													599			
200	御簾一重	B			15巻蜻蛉の巻	御簾一重								7	600	下絵 001-025/ 下絵 001-106		
200	御簾一重	カット2																
200	御簾一重	カット3																
200	御簾一重	カット4																
200	御簾一重	カット5																
200	御簾一重	カット6																
201	冠抛棄	カット		レイアウト指示書、 または校正?002-275	15巻蜻蛉の巻	冠抛棄								7	601			
201	冠抛棄	A		レイアウト指示書、 または校正?002-275											602			
201	雪泥	B		レイアウト指示書、 または校正?002-275	15巻蜻蛉の巻	雪泥								7	603			
201	雪泥	C		レイアウト指示書、 または校正?002-275														
202	天魔の巢	カット			15巻蜻蛉の巻	天魔の巢								7	604			
202	天魔の巢	A													605			
202	姫秘事(ひめかくし)	B			15巻蜻蛉の巻	姫秘事				F18 冬姫秘事				7	606			
202	姫秘事(ひめかくし)	C																
203	軍間茶話 一前回までの梗概に代へて	カット		レイアウト指示書、 または校正?002-276										7	607			
203	鳥合と狡獣 (うごうとこうじゅう)	A		レイアウト指示書、 または校正?002-276	16巻京乃木曾殿の巻	鳥合と狡獣				F19 鳥合と狡獣				7	608			
203	鳥合と狡獣 (うごうとこうじゅう)	B		レイアウト指示書、 または校正?002-276														
203	弱公卿・強公卿 (よわくげつよくげ)	C	002-242	レイアウト指示書、 または校正?002-276	16巻京乃木曾殿の巻	弱公卿・強公卿								7	609			
203	弱公卿・強公卿	D		レイアウト指示書、 または校正?002-276						F20 鼓の判官、木曾 を嘲る								
204	火矢	カット			16巻京乃木曾殿の巻	火矢								7	610			
204	火矢	A													611			
204	捨て小舟	B			16巻京乃木曾殿の巻	捨て小舟								7	612			
204	捨て小舟	C																

連載 順数	週刊誌「週刊朝日」1950年から1957年				『刊行本』1951年から1957年					『画帖』1956年と1959年			『新装本』1960年			月刊誌「小説週刊朝日」1972年		
	文章名	挿絵	作品番号	未発表画稿/下絵	巻名	文章名	挿絵	作品番号	未発表画稿/ /下絵	作品番号	未発表/ 下絵	巻名	作品番号	未発表/ 下絵	巻名	掲載番号	未発表/下絵/手控	
205	物の怪沙汰	カット			16巻京乃木曾殿の巻	物の怪沙汰	16-1	002-044							8	613		
205	物の怪沙汰	A														614		
205	賀賀文(むこせいもん)	B			16巻京乃木曾殿の巻	賀賀文									8	615		
205	賀賀文	C									下22 賀賀文							
206	秘園散走	カット			16巻京乃木曾殿の巻	秘園散走					下23 秘園散走				8	616		
206	秘園散走	A														617		
206	冬の花	B			16巻京乃木曾殿の巻	冬の花									8	618		
206	冬の花	C									下24 冬愁旅奪							
207	軍閥茶話 —前回までの梗概に代へて	カット													8	619		
207	平家権と源氏権	A			16巻京乃木曾殿の巻	平家権と源氏権									8	620		
207	平家権と源氏権	B									下25 床下の声と冷泉局							
207	まつ毛の雪	C			16巻京乃木曾殿の巻	まつ毛の雪									8	621		
208	雪巴	カット			16巻京乃木曾殿の巻	雪巴									8	622		
208	雪巴	A									下26 巴、義仲を見送る							
208	稚き火草	B			16巻京乃木曾殿の巻	稚き火草									8	623	下 絵 001-075	
208	元日の雷	C			16巻京乃木曾殿の巻	元日の雷									8	624		
209	変々恋々	カット			16巻京乃木曾殿の巻	変々恋々									8	625		
209	変々恋々	A														626		
209	春吉島	B			16巻京乃木曾殿の巻	春吉島	16-2	002-042				5-6	003-039		8	627	下 絵 001-149	
209	春吉島	C																
210	牛喧・磨墨 (いけづき。するすみ)	カット			16巻京乃木曾殿の巻	牛喧・磨墨									8	628		
210	牛喧・磨墨 (いけづき。するすみ)	A														629		
210	牛喧・磨墨 (いけづき。するすみ)	B																
210	宇治のしがらみ	C			16巻京乃木曾殿の巻	宇治川名乗									8	630		
211	軍閥茶話 —前回までの梗概に代へて	カット													8	631		
211	花筏	A			16巻京乃木曾殿の巻	花筏									8	632		
211	花筏	B																
211	盗ひ寝盗み	C			16巻京乃木曾殿の巻	盗ひ寝盗み									8	633		
212	妻なりしもの	カット			16巻京乃木曾殿の巻	妻なりしもの						5-7	003-038		8	634		
212	病鏡(やみかかみ)	A			16巻京乃木曾殿の巻	病鏡									8	635		
212	動座陣(どうざじん)	B			16巻京乃木曾殿の巻	動座陣	16-3	002-047							8	636		
212	動座陣(どうざじん)	C																
213	片あぶみ	カット			16巻京乃木曾殿の巻	片あぶみ									8	637		
213	片あぶみ	A														638		
213	荒天	B			16巻京乃木曾殿の巻	荒天									8	639		
213	荒天	C																
214	九郎を見給ふ	カット			16巻京乃木曾殿の巻	九郎を見給ふ									8	640	下絵? 001-024	
214	九郎を見給ふ	A														641		
214	死地の春風	B			16巻京乃木曾殿の巻	死地の春風									8	642	下 絵 001-161	
214	死地の春風	C									下28 死地の春風							
215	落日粟津ヶ原	カット			16巻京乃木曾殿の巻	落日粟津ヶ原									8	643		
215	落日粟津ヶ原	A																
215	葉屑花屑集 (はくつはなくづしゅう)	B			16巻京乃木曾殿の巻	葉屑花屑	16-4	002-062			下29 巴、捕はる		5-8	003-037	8	644		
215	葉屑花屑集	C														645		
215	葉屑花屑集	カット2																
216	木曾義仲と巴の抄 —「番外雑感」	カット													8	646		
216	彼と運命の岩茸																	
216	産婦か母性か	A																

連載 回数	週刊誌「週刊朝日」1950年から1957年				『刊行本』1951年から1957年				『前帖』1956年と1959年			『新装本』1960年			月刊時「小説週刊朝日」1972年		
	文章名	挿絵	作品番号	未発表面稿/下絵	巻名	文章名	挿絵	作品番号	未発表面稿/ /下絵	作品番号	未発表/ 下絵	巻名	作品番号	未発表/ 下絵	巻名	掲載番号	未発表/下絵/手控
216	芭蕉は義仲をどう見たか	B													8	647	
216	宇治川拾遺	—													8	648	
216	義経と一の谷	—															
216	私事片々	C															
217	寿永の落し子	カット			16巻京乃木曾殿の巻	寿永の落し子									8	649	
217	寿永の落し子	A									下30	寿永の落し子				650	
217	寿永の落し子	B															
217	不気味な客人	C			16巻京乃木曾殿の巻	不気味な客人					下31	不気味な客人			8	651	下 絵 001-160
218	小次郎と熊谷直実	カット			16巻京乃木曾殿の巻	熊谷直実とその子									8	652	
218	小次郎と熊谷直実	A														653	
218	忘れえぬ人々	B			16巻京乃木曾殿の巻	忘れえぬ人々									8	654	
218	忘れえぬ人々	C															
219	常磐の果て	カット			16巻京乃木曾殿の巻	常磐の果て									8	655	
219	常磐の果て	A														656	
219	常磐の果て	B															
219	陣医洋語	C			16巻京乃木曾殿の巻	陣医洋語									8	657	
220	夜目の綾衣	カット			16巻京乃木曾殿の巻	夜目の綾衣									8	658	
220	夜目の綾衣	A															
220	あつもりの君	B			16巻京乃木曾殿の巻	あつもりの君									8	659	
220	大江山侍ち	C			16巻京乃木曾殿の巻	大江山侍ち									8	660	
221	六方寺船	カット			17巻ひよどり越えの巻	六方寺船									8	661	
221	六方寺船	A														662	
221	屋島の恋の子	B			17巻ひよどり越えの巻	屋島の恋の子									8	663	未発表 001-016
221	屋島の恋の子	C															
222	軍閥茶話 —前回までの梗概に代へて	カット													8	664	
222	乙子と兄	A		未発表 002-063	17巻ひよどり越えの巻	乙子と兄たち									8	665	
222	乙子と兄	B															
222	鉄漿染めて	C			17巻ひよどり越えの巻	鉄漿染めて									8	666	
222	二位ノ尼	D			17巻ひよどり越えの巻	二位ノ尼									8		
223	鼻と金売	カット			17巻ひよどり越えの巻	鼻と金売									8	667	
223	鼻と金売	A									下32	鼻と金売					
223	海の蝶々	B			17巻ひよどり越えの巻	海の蝶々									8	668	
223	悲絃	C (カット?)			17巻ひよどり越えの巻	悲絃									8	669	下 絵 001-067
224	吾子は白珠	カット			17巻ひよどり越えの巻	吾子は白珠	17-1	002-112					6-1	003-047	8	670	
224	吾子は白珠	A										下33	宗盛、みかどを あやし奉る			671	
224	吾子は白珠	B										下34	吾子は白珠				
224	和平の使	C			17巻ひよどり越えの巻	和平の使									8	672	
225	駄五六思案(だごろくしあん)	カット			17巻ひよどり越えの巻	駄五六思案									8	673	
225	駄五六思案	A										下35	駄五六思案			674	
225	駄五六思案	B															
225	小宰相	C			17巻ひよどり越えの巻	小宰相									8	675	
226	天馬の火	カット			17巻ひよどり越えの巻	天馬の火									8	676	
226	天馬の火	A															
226	三草落し	B			17巻ひよどり越えの巻	三草落し									8	677	
226	三草落し	C														678	
227	軍閥茶話 —論外・山籠だより—	カット													8	679	
227	ひよどり越え	A			17巻ひよどり越えの巻	ひよどり越え									8	680	
227	ひよどり越え	B					17-2	002-220									
227	通感討たれ	C			17巻ひよどり越えの巻	通感討たれ									8	681	
228	騙し小平六	カット			17巻ひよどり越えの巻	騙し小平六									8	682	
228	騙し小平六	A															
228	一ノ谷絵巻	B			17巻ひよどり越えの巻	一ノ谷絵巻							6-2	003-049	8	683	

連載 順数	週刊誌「週刊朝日」1950年から1957年				『刊行本』1951年から1957年				『画帖』1956年と1959年			『新装本』1960年			月刊誌「小説週刊朝日」1972年		
	文章名	挿絵	作品番号	未発表画稿/下絵	巻名	文章名	挿絵	作品番号	未発表画稿/ 下絵	作品番号	未発表/ 下絵	巻名	作品番号	未発表/ 下絵	巻名	掲載番号	未発表/下絵/手控
228	一ノ谷絵巻	C														(684)	
229	修羅山海経	カット			17巻ひよどり越えの巻	修羅山海経									8	685	未発表 001-077 (絵は全く違う)
229	修羅山海経	A														686	
229	重衡生捕られ	B			17巻ひよどり越えの巻	重衡生捕られ									8	687	
229	忠度・歌がたみ	C			17巻ひよどり越えの巻	忠度・歌がたみ									8		
230	無官大夫	カット			17巻ひよどり越えの巻	無官大夫									8	688	
230	無官大夫	A														689	
230	無官大夫	B															
230	凱歌の下にも				17巻ひよどり越えの巻	凱歌の下にも									8	690	未発表 001-005
231	宇慈 (ろうしゅう)	カット			17巻ひよどり越えの巻	宇慈									8	691	
231	宇慈 (ろうしゅう)	A														692	
231	一つの岡	B			17巻ひよどり越えの巻	一つの岡									8	693	
231	雑居佛 (ざっきよぶつ)	C			17巻ひよどり越えの巻	雑居佛									8		
232	互磯園鬼燈	カット			17巻ひよどり越えの巻	互磯園鬼燈									8	694	
232	互磯園鬼燈	A															
232	首渡し	B		未発表 002-297	17巻ひよどり越えの巻	首渡し	17-4								8	695	
232	悲願の小八葉	C			17巻ひよどり越えの巻	小八葉									8	696	
233	右衛門佐ノ局	カット			17巻ひよどり越えの巻	右衛門佐ノ局									8	697	
233	右衛門佐ノ局	A														698	
233	右衛門佐ノ局	B															
233	屋島返書	C			17巻ひよどり越えの巻	屋島返書									8	699	
234	平三放言	カット			17巻ひよどり越えの巻	平三放言									8	700	
234	平三放言	A															
234	平三放言	B															
234	鎌倉の眼	C			18巻千手の巻	鎌倉の眼									9	701	
235	朝の古水	カット			18巻千手の巻	朝の古水									9	702	
235	朝の古水	A															
235	法然上人	B			18巻千手の巻	法然上人									9	703	
235	法然上人	C															
236	この小説の手引と概観 —新しい読者のために—	カット													9	704	
236	佛敵同土	カット2			18巻千手の巻	佛敵同土									9	705	
236	佛敵同土	A															
236	中將・海道下り	B			18巻千手の巻	中將・海道下り									9	706	
236	中將・海道下り	C															
237	小磯大磯	カット			18巻千手の巻	小磯大磯									9	707	
237	小磯大磯	A															
237	新柳宮	B			18巻千手の巻	新柳宮	18-1	002-262							9	708	
237	新柳宮	C														709	
238	石の庭	カット			18巻千手の巻	石の庭									9	710	
238	石の庭	A															
238	千手の前	B			18巻千手の巻	千手の前									9	711	
238	千手の前	C														712	
239	酒景雨景	カット			18巻千手の巻	酒景雨景									9	713	下絵 001-069/ 下絵 001-210
239	酒景雨景	A															
239	楚歌と虞の君	B			18巻千手の巻	楚歌と虞の君	18-2	002-236							9	714	
239	楚歌と虞の君	C														715	手控 001-137
240	初夜ならぬ初夜	カット			18巻千手の巻	初夜ならぬ初夜									9	716	
240	初夜ならぬ初夜	A														717	
240	初夜ならぬ初夜	B															
240	夜伽吟味	C			18巻千手の巻	夜伽吟味									9	718	
241	空抱きの君	カット			18巻千手の巻	空抱きの君									9	719	
241	空抱きの君	A														720	

連載 順数	週刊誌「週刊朝日」1950年から1957年				『刊行本』1951年から1957年					『画帖』1956年と1959年			『新装本』1960年			月刊時「小説週刊朝日」1972年		
	文章名	挿絵	作品番号	未発表画稿/下絵	巻名	文章名	挿絵	作品番号	未発表画稿/ /下絵	作品番号	未発表/ 下絵	巻名	作品番号	未発表/ 下絵	巻名	掲載番号	未発表/下絵/手控	
241	絵像と大姫	B			18巻千手の巻	絵像と大姫									9	721		
241	絵像と大姫	C																
242	興の通ひ日	カット			18巻千手の巻	興の通ひ日									9	722		
242	興の通ひ日	A														723	下 絵 001-209	
242	返り帰りの大納言	B			18巻千手の巻	返り帰りの大納言									9	724	下 絵 001-068	
242	裂かるる生木	—			18巻千手の巻	裂かるる生木									9			
243	恋敵受取	A			18巻千手の巻	恋敵受取									9	725		
243	恋敵受取	B																
243	ゆかりの人々	C			18巻千手の巻	ゆかりの人々									9	726	下 絵 001-118	
243	般若寺斬り	D			18巻千手の巻	般若寺斬り									9	727		
244	新春風語—連載五年へのぞむ 第一回の序に	カット 1/2													9	728		
244	叙勲	A			18巻千手の巻	叙勲									9	729	下 絵 001-211	
244	殿の公卿	B			18巻千手の巻	殿の公卿									9			
244	一日任官	C			18巻千手の巻	一日任官	18-3	002-237							9	730		
245	駒化粧	カット			18巻千手の巻	駒化粧									9	731		
245	駒化粧	A														732		
245	をだまきの歌	B			18巻千手の巻	をだまきの歌						6-6	003-051		9			
245	をだまきの歌	C								F43	をだまきの歌							
246	得意と失意	カット			18巻千手の巻	得意と失意									9	733		
246	得意と失意	A														734		
246	押しつけ妻	B			18巻千手の巻	押しつけ妻									9			
246	鼓の家	C			18巻千手の巻	鼓の家									9	735		
247	鳴らない鼓	カット			18巻千手の巻	鳴らない鼓									9	736		
247	鳴らない鼓	A																
247	正妻	B			18巻千手の巻	正妻									9	737		
247	よく廻る舌	C			18巻千手の巻	よく廻る舌									9	738		
248	初霜	カット			18巻千手の巻	初霜	18-4	002-222				6-7	003-072		9	739		
248	初霜	A																
248	ひとまつ無事	B			18巻千手の巻	ひとまつ無事					F44	ひとまつ無事			9	740		
248	政子と幕府	C			18巻千手の巻	政子と幕府					F45	幕府の政子			9	741	下 絵 001-189	
249	軍閥茶話 —前号までの梗概に代へて—	カット													9	742		
249	雪中双鶩	A		未発表 002-157	18巻千手の巻	雪中双鶩									9	743		
249	雪中双鶩	B																
249	熊野の海兎	C			19巻やしまの巻	熊野の海兎									9	744		
249	熊野の海兎	カット2														745		
250	殿女のふるさと	カット		未発表 002-163	19巻やしまの巻	殿女のふるさと					F46	殿女のふるさと			9			
250	殿女のふるさと	A																
250	買占	B			19巻やしまの巻	買占									9	746	下 絵 001-195	
250	田辺の鯨	C			19巻やしまの巻	田辺の鯨									9	747		
251	小王国	カット			19巻やしまの巻	小王国									9			
251	小王国	A																
251	さくらノ局	B			19巻やしまの巻	さくらノ局									9	748		
251	引綱	C			19巻やしまの巻	引綱									9			
252	はだか密談	カット			19巻やしまの巻	はだか密談									9	749		
252	はだか密談	A																
252	路傍の修験者	B			19巻やしまの巻	路傍の修験者									9			
252	神文	C			19巻やしまの巻	神文									9	750		
253	軍閥茶話 —前号までの梗概に代へて—	カット		未発表 002-118/ 未発表 002-140/ 下 絵 002-152											9	751		
253	紅白鷓合せ	A			19巻やしまの巻	紅白鷓合せ	19-1					6-8	003-073		9	752		
253	紅白鷓合せ	B									F47	紅白鷓合せ						
253	策と策	C			19巻やしまの巻	策と策									9	753		
254	呉越の会	カット			19巻やしまの巻	呉越の会									9	754		

連載 順数	週刊誌「週刊朝日」1950年から1957年				『刊行本』1951年から1957年					『画帖』1956年と1959年			『新装本』1960年			月刊時「小説週刊朝日」1972年		
	文章名	挿絵	作品番号	未発表画稿/下絵	巻名	文章名	挿絵	作品番号	未発表画稿 /下絵	作品番号	未発表/ 下絵	巻名	作品番号	未発表/ 下絵	巻名	掲載番号	未発表/下絵/手控	
254	呉越の会	A														755		
254	呉越の会	B																
254	肉迫	C			19巻やしまの巻	肉迫									9	756		
255	歡喜天	カット			19巻やしまの巻	歡喜天									9	757		
255	歡喜天	A														758	下 絵 001-184/ 手 控 001-017	
255	歡喜天	B								F48 歡喜天								
255	船のない漁夫	C			19巻やしまの巻	船のない漁夫									9			
256	船集ひ	カット			19巻やしまの巻	船集ひ									9	759	手 控 001-015	
256	船集ひ	A																
256	那須の兄弟	B			19巻やしまの巻	那須の兄弟									9	760		
256	那須の兄弟	C								F49 那須の兄弟						761		
257	軍閥茶話 —前号までの梗概に代へて—	カット													9	762		
257	先駆の人々	A			19巻やしまの巻	先駆の人々									9	763		
257	先駆の人々	B																
257	第一語	C			19巻やしまの巻	第一語									9	764		
257	第一語	D																
258	非奇蹟	カット			19巻やしまの巻	非奇蹟						6-9	003-053		9	765	下 絵 001-188	
258	非奇蹟	A														766		
258	非奇蹟	B			19巻やしまの巻		19-2	002-226		F50・F51 非奇蹟								
258	死中・滑稽あり	C				死中・滑稽あり									9	767		
259	春眠	カット			19巻やしまの巻	春眠									9	768		
259	草の実仕事	A			19巻やしまの巻	草の実仕事									9	769		
259	草の実仕事	B																
259	大坂越え	C			19巻やしまの巻	大坂越え				F52 大坂越え					9	770	下 絵 001-185/ 下 絵 001-226	
260	野馬隊	カット			19巻やしまの巻	野馬隊									9	771	下 絵 001-224	
260	野馬隊	A		下 絵 002-121			19-3	002-227								772		
260	やしま世帯	B			19巻やしまの巻	やしま世帯									9			
260	神ならぬ身	C			19巻やしまの巻	神ならぬ身									9	773		
261	孤父	カット			19巻やしまの巻	孤父	19-4			F53 女院のおん肌					9	774		
261	てんぐるま	A			19巻やしまの巻	てんぐるま				F54 孤父経盛					9	775		
261	てんぐるま	B								F55 てんぐるま								
261	女院のおん肌	C			19巻やしまの巻	女院のおん肌				F56 花つむじ		6-10	003-048		9	776	下 絵 001-225	
262	群蝶をののく	カット			19巻やしまの巻	群蝶をののく									9	777		
262	群蝶をののく	A																
262	群蝶をののく	B																
262	虚相実相	C			19巻やしまの巻	虚相実相									9	778		
263	総門落し	カット			19巻やしまの巻	総門落し									9	779		
263	総門落し	A								F57 やしま落去						780		
263	平大納言の和策	B			19巻やしまの巻	平大納言の和策									9	781		
263	平大納言の和策	C								F58 みかどと御母								
264	荒公達	カット			19巻やしまの巻	荒公達									9	782		
264	荒公達	A														783	手 控 001-018	
264	荒公達	B																
264	異端の道	C			19巻やしまの巻	異端の道									9	784		
265	二日待ち	カット			19巻やしまの巻	二日待ち									10	785		
265	二日待ち	A					19-5	002-160										
265	二日待ち	B																
265	そこ退き候へ	C			19巻やしまの巻	そこ退き候へ									10	786		
266	継信の死・菊王の死	カット			19巻やしまの巻	継信の死・菊王の死									10	787		
266	継信の死・菊王の死	A																
266	麻島見舞	B			19巻やしまの巻	麻島見舞				F59 佐藤忠信の死					10	788		
266	日の扇	C			19巻やしまの巻	日の扇				F60 麻島見舞					10	789	下 絵 001-192	
266	日の扇	D								F61 敵屍								

連載 題数	週刊誌「週刊朝日」1950年から1957年				「刊行本」1951年から1957年					「画帖」1956年と1959年			「新装本」1960年			月刊誌「小説週刊朝日」1972年		
	文章名	挿絵	作品番号	未発表画稿/下絵	巻名	文章名	挿絵	作品番号	未発表画稿/ 下絵	作品番号	未発表/ 下絵	巻名	作品番号	未発表/ 下絵	巻名	掲載番号	未発表/下絵/手控	
267	風流陣	カット																
267	玉蟲	A			20巻浮栗の巻	玉蟲						7-1	003-064		10	790		
267	玉蟲	B																
267	余一の憂鬱	C			20巻浮栗の巻	余一の憂鬱									10	791/792	791 下絵 001-193	
268	的	カット			20巻浮栗の巻	的									10	793		
268	的	A																
268	悪七兵衛	B			20巻浮栗の巻	悪七兵衛									10	794	下絵 001-166/ 手控 001-001	
268	弓流し	C			20巻浮栗の巻	弓流し									10	795		
269	桜間ノ介	カット			20巻浮栗の巻	桜間ノ介						7-2	003-063		10	796		
269	桜間ノ介	A					20-1		下62 桜間ノ介								797	
269	海の蜃龍	B			20巻浮栗の巻	海の蜃龍									10	798		
269	海の蜃龍	C																
270	軍間茶話 一前号までの梗概に代へてー	カット													10	799		
270	軍間茶話 一前号までの梗概に代へてー	A																
270	機密	B			20巻浮栗の巻	機密									10			
270	教経・哭きて囁ひ	C			20巻浮栗の巻	教経・哭きて囁ひ			下63 岐路の一空						10	800		
270	教経・哭きて囁ひ	D																
271	祝杯	カット			20巻浮栗の巻	祝杯									10	801		
271	祝杯	A							下64 祝杯									
271	夢の中にも夢を見るかな	B			20巻浮栗の巻	夢の中にも夢を見る かな						7-3	003-065		10	802	下絵 001-191/ 下絵 001-227	
271	夢の中にも夢を見るかな	C					20-2		下65 夢の中にも夢を 見るかな								803	
272	降兵始末	カット			20巻浮栗の巻	降兵始末									10	804		
272	降兵始末	A							下66 降兵始末									
272	喧騒過ぎての一	B			20巻浮栗の巻	喧騒過ぎての一									10	805		
272	喧騒過ぎての一	C																
273	白峰嵐し	カット			20巻浮栗の巻	白峰嵐し									10	806		
273	大魔王	A			20巻浮栗の巻	大魔王			下67 白峰みち						10	807		
273	大魔王	B																
273	よしや君	C			20巻浮栗の巻	よしや君			下68 よしや君						10			
274	浮栗の一門	カット			20巻浮栗の巻	浮栗の一門									10	808		
274	平家の氏神	A			20巻浮栗の巻	平家の氏神									10	809		
274	平家の氏神	B															810	
274	平家の氏神	C							下69 平家の氏神								下絵 001-165	
275	大鳥居	カット			20巻浮栗の巻	大鳥居									10	811		
275	大鳥居	A															812	
275	地への恋	B			20巻浮栗の巻	地への恋	20-3					7-4	003-066		10	813	手控 001-003	
275	はつぶり下葛	C			20巻浮栗の巻	はつぶり下葛									10			
276	軍間茶話 一前号までの梗概に代へてー	カット													10	814		
276	旧縁	A			20巻浮栗の巻	旧縁			下70 いつく島夕照						10	815	下絵 001-035	
276	風前千燈	B			20巻浮栗の巻	風前千燈									10	816		
276	似もし給はず	C			20巻浮栗の巻	似もし給はず									10			
276	似もし給はず	D							下71 似もし給はず									
277	手引の約	カット			20巻浮栗の巻	手引の約	20-4								10	817	手控 001-011	
277	手引の約	A															818	
277	彦島とりて	B			20巻浮栗の巻	彦島とりて									10	819	下絵 001-167	
277	彦島とりて	C							下72 彦島とりて									
278	船所歌	カット			20巻浮栗の巻	船所歌									10	820		
278	船所歌	A							下73 船所歌								821	
278	逆櫓	B			20巻浮栗の巻	逆櫓									10			
278	上の関を出る	C			20巻浮栗の巻	上の関を出る									10	822		

連載 順数	週刊誌「週刊朝日」1950年から1957年				『刊行本』1951年から1957年					『画帖』1956年と1959年			『新装本』1960年			月刊誌「小説週刊朝日」1972年		
	文章名	挿絵	作品番号	未発表画稿/下絵	巻名	文章名	挿絵	作品番号	未発表画稿/ 下絵	作品番号	未発表/ 下絵	巻名	作品番号	未発表/ 下絵	巻名	掲載番号	未発表/下絵/手控	
279	軍閥茶話 一前号までの梗概に代へて一	カット													10	823		
279	満珠・干珠	A			20巻浮栗の巻	満珠・干珠									10			
279	満珠・干珠	B																
279	黄門知盛	C			20巻浮栗の巻	黄門知盛									10	824		
280	黒い月	カット			20巻浮栗の巻	黒い月									10	825		
280	黒い月	A														826		
280	鬼曲	B			20巻浮栗の巻	鬼曲						7-5	003-067		10	827		
280	鬼曲	C					20-5											
281	かたみ送り	カット			20巻浮栗の巻	かたみ送り									10	828		
281	かたみ送り	A														829		
281	御身隠しの事	B			20巻浮栗の巻	御身隠しの事									10	830		
281	御身隠しの事	C																
282	女房の櫛	カット			20巻浮栗の巻	女房の櫛									10	831		
282	女房の櫛	A																
282	筑紫の紅白	B			20巻浮栗の巻	筑紫の紅白									10	832		
282	筑紫の紅白	C																
283	死出の伽羅焚き	カット			20巻浮栗の巻	死出の伽羅焚き									10	833		
283	死出の伽羅焚き	A														834		
283	のろし	B			20巻浮栗の巻	のろし									10	835		
283	のろし	C																
284	軍閥茶話 一前号までの梗概に代へて一	カット														836		
284	悲風の村座	A			20巻浮栗の巻	悲風の村座									10	837		
284	悲風の村座	B																
284	みかどと蟹	C			20巻浮栗の巻	みかどと蟹									10	838		
284	みかどと蟹	D																
285	偽計・御座替	カット			21巻増ノ浦の巻	御座替え									10	839		
285	偽計・御座替	A														840		
285	刺客団	B			21巻増ノ浦の巻	刺客									10	841		
285	刺客団	C																
286	前夜変	カット			21巻増ノ浦の巻	前夜変									10	842		
286	前夜変	A					21-1											
286	不戦の人	B			21巻増ノ浦の巻	不戦の人									10	843		
286	不戦の人	C														844		
287	臨海館	カット			21巻増ノ浦の巻	臨海館									10	845		
287	臨海館	A														846		
287	一葉の舟	B			21巻増ノ浦の巻	一葉の舟									10	847		
287	一葉の舟	C																
288	軍閥茶話 一前号までの梗概に代へて一	カット													10	848		
288	爪を噛む	A			21巻増ノ浦の巻	爪を噛む									10	849	下 絵 001-037/ 下 絵 001-156	
288	爪を噛む	B																
288	墨磨れ、弁慶	C			21巻増ノ浦の巻	墨磨れ、弁慶									10	850		
288	墨磨れ、弁慶	D																
289	一狂女やも知れず	カット			21巻増ノ浦の巻	捨て猫の果て									10	851		
289	一狂女やも知れず	A														852		
289	一狂女やも知れず	B																
289	桶の表裏	C			21巻増ノ浦の巻	盾の表裏									10	853		
289	桶の表裏	D														854		
290	笑つぼの渦	カット			21巻増ノ浦の巻	笑つぼの渦									10	855		
290	笑つぼの渦	A																
290	好敵手	B		下 絵 002-167	21巻増ノ浦の巻	好敵手									10	856		
290	好敵手	C																
291	酒化粧	カット			21巻増ノ浦の巻	酒化粧									10	857		

連載 順数	週刊誌「週刊朝日」1950年から1957年				『刊行本』1951年から1957年					『画帖』1956年と1959年			『新装本』1960年			月刊時「小説週刊朝日」1972年		
	文章名	挿絵	作品番号	未発表画稿/下絵	巻名	文章名	挿絵	作品番号	未発表画稿/ /下絵	作品番号	未発表/ 下絵	巻名	作品番号	未発表/ 下絵	巻名	掲載番号	未発表/下絵/手控	
291	酒化粧	A																
291	お絵の遊び	B			21巻増ノ浦の巻	お絵の遊び						7-6	003-046		10	858	下 絵 001-179	
291	お絵の遊び	C							21-2	002-154								
292	両雄談心	カット			21巻増ノ浦の巻	両雄談心									10	859		
292	両雄談心	A															下 絵 001-169/ 下 絵 001-159/ 下 絵 001-198	
292	髪と仮名文	B			21巻増ノ浦の巻	髪と仮名文									10	861		
292	髪と仮名文	C																
293	矢見参	カット			21巻増ノ浦の巻	矢見参									10	862		
293	矢見参	A																
293	からふね暴れ	B			21巻増ノ浦の巻	からふね暴れ									10	863	下 絵 001-168	
293	からふね暴れ	C																
294	黄旗まぎれ	カット			21巻増ノ浦の巻	黄旗まぎれ									10	864		
294	黄旗まぎれ	A																
294	海豚	B			21巻増ノ浦の巻	海豚									10	865		
294	海豚	C																
295	大悲譜	カット			21巻増ノ浦の巻	大悲譜						7-7	003-050		10	867	下 絵 001-028	
295	死の清掃	A		未発表 002-137	21巻増ノ浦の巻	死の清掃									10	868		
295	波の底にも都の候ふ	B			21巻増ノ浦の巻	波の底にも都の候う									10	869		
295	波の底にも都の候ふ	C																
296	軍間茶話 一前号までの梗概に代へて	カット													11	870		
296	生きさまようて	A			21巻増ノ浦の巻	生きさまようて									11			
296	生きさまようて	B																
296	幻人語	C			21巻増ノ浦の巻	幻人語									11	871	下 絵 001-233	
296	幻人語	D																
297	世間新色	カット			21巻増ノ浦の巻	世間新色						7-8	003-070		11	872		
297	世間新色	A																
297	飛説さまさま	B			21巻増ノ浦の巻	飛説さまさま									11	873/874		
297	壊す人びとと建てる人びと	C			21巻増ノ浦の巻	壊す人びとと建てる人びと									11	875		
297	壊す人びとと建てる人びと	D							21-4									
298	現と夢	カット			21巻増ノ浦の巻	現と夢									11	876		
298	現と夢	A																
298	増ノ浦飛脚	B			21巻増ノ浦の巻	増ノ浦飛脚									11	878		
298	増ノ浦飛脚	C																
299	潮語不可解	カット			21巻増ノ浦の巻	潮語不可解									11	879	未発表 001-199	
299	潮語不可解	A																
299	潮語不可解	B																
299	花崩れ	C			21巻増ノ浦の巻	花さまさま									11	880/881	880 下 絵 001-200/ 880 下 絵 001-201	
300	女院と義経	カット	002-300		21巻増ノ浦の巻	女院と義経									11	882		
300	女院と義経	A																
300	女院と義経	B																
300	月無き明石	C			21巻増ノ浦の巻	月無き明石									11	883/884		
301	車棧敷	カット			21巻増ノ浦の巻	車棧敷						7-9	003-069		11	885		
301	車棧敷	A																
301	勘当	B		未発表 002-141	21巻増ノ浦の巻	勘当			21-5						11	887	下 絵 001-066	
301	勘当	C																
302	幾山河	カット	002-283		22巻悲弟の巻	幾山河									11	888		
302	幾山河	A																
302	帰還の門	B	002-290	未発表 002-308	22巻悲弟の巻	帰還の門									11	889		
302	帰還の門	C																

連載 順数	週刊誌「週刊朝日」1950年から1957年				『刊行本』1951年から1957年					『画帖』1956年と1959年			『新装本』1960年		月刊誌「小説週刊朝日」1972年		
	原文名	挿絵	作品番号	未発表画稿/下絵	巻名	文章名	挿絵	作品番号	未発表画稿/ /下絵	作品番号	未発表/ 下絵	巻名	作品番号	未発表/ 下絵	巻名	掲載番号	未発表/下絵/手控
303	垣の同窓	カット	002-307		22巻悲弟の巻	垣の同窓									11	890	
303	垣の同窓	A														891	
303	垣の同窓	B														892	
303	體越状	C	002-306		22巻悲弟の巻	體越状	22-1	002-066			下95 體越状	7-10	003-068		11		
304	葉のわだち	カット			22巻悲弟の巻	葉のわだち									11	893	
304	葉のわだち	A									下96 葉のわだち						
304	首のなる木	B	002-161		22巻悲弟の巻	首のなる木									11	894	
304	首のなる木	C															
305	罪問茶話	カット													11	895	
305	捏造	A			22巻悲弟の巻	捏造									11	896	
305	捏造	B															
305	青春抱殺	C			22巻悲弟の巻	青春抱殺									11	897	
305	青春抱殺	D	002-292														
306	一期の主従	カット	002-296		22巻悲弟の巻	一期の主従									11	898	
306	一期の主従	A	002-295														
306	紫陽花の寝間	B			22巻悲弟の巻	紫陽花の寝間									11	899	
306	紫陽花の寝間	C									下97 紫陽花の寝間						
307	夢咲き夕の花	カット	002-299		22巻悲弟の巻	夕咲きの花									11	900	
307	夢咲き夕の花	A														901	下絵 001-171
307	夢咲き夕の花	B															
307	あふない食客	C			22巻悲弟の巻	あふない食客									11	902	
308	酒魂記	カット			22巻悲弟の巻	酒魂記									11	903	
308	酒魂記	A															
308	再来魔	B			22巻悲弟の巻	再来魔					下98 大震				11	904	
308	再来魔	C									下99 再来魔					905	
309	佛面密使	カット			22巻悲弟の巻	佛面密使									11	906	
309	佛面密使	A														907	
309	灸対面	B			22巻悲弟の巻	灸対面						8-1	003-059		11	908	下絵 001-186
309	灸対面	C					22-2	002-065			下100 やいと対面						
310	隠れ責	カット	002-304		22巻悲弟の巻	病判官									11	909	
310	隠れ責	A	002-282														
310	平大納言の処決	B			22巻悲弟の巻	平大納言の処決									11	910	
310	平大納言の処決	C															
311	土佐房昌復	カット			22巻悲弟の巻	土佐房昌復									11	911	
311	土佐房昌復	A	002-243													912	
311	昨日の彼と見えぬ彼	B	002-277		22巻悲弟の巻	昨日の彼と見えぬ彼									11	913	
311	昨日の彼と見えぬ彼	C															
312	堀川夜討	カット	002-278		22巻悲弟の巻	堀川夜討									11	914	
312	二度の黄瀬川	A			22巻悲弟の巻	二度の黄瀬川					下101 堀川夜討				11	915	
312	二度の黄瀬川	B														916	
312	二度の黄瀬川	C	002-245														
313	泣き焚火	カット			22巻悲弟の巻	泣き焚火					下102 建礼門院				11	917	
313	泣き焚火	A									下103 あした侍						
313	立つ鳥の跡	B			22巻悲弟の巻	立つ鳥の跡	22-3	002-079			下104 泣き焚火				11		
313	立つ鳥の跡	C	002-247														
314	告別	カット	002-293		22巻悲弟の巻	告別									11	918	
314	告別	A	002-305													919	
314	前途の冬	B			22巻悲弟の巻	前途の冬					下105 前途の冬				11	920	
314	前途の冬	C	002-289														
315	ふたり妻	カット	002-294		22巻悲弟の巻	ふたり妻									11	921	
315	ふたり妻	A														922	
315	今は昔一錠の夜がたり	B	002-248		22巻悲弟の巻	今は昔一錠の夜がたり									11	923	
315	今は昔一錠の夜がたり	C															
316	大物ノ浦	カット			22巻悲弟の巻	大物ノ浦									11	924	

連載 順数	週刊誌「週刊朝日」1950年から1957年				「刊行本」1951年から1957年				「画帖」1956年と1959年			「新装本」1960年			月刊誌「小説週刊朝日」1972年		
	文章名	挿絵	作品番号	未発表画稿/下絵	巻名	文章名	挿絵	作品番号	未発表画稿/ /下絵	作品番号	未発表/ 下絵	巻名	作品番号	未発表/ 下絵	巻名	掲載番号	未発表/下絵/手控
316	人物ノ画	A														925	
316	首領人	B		未発表 002-288	22巻悲弟の巻	首領人									11	926	手控 001-061
316	首領人	C															
317	背水	カット	002-298		22巻悲弟の巻	背水									11	927	
317	背水	A															
317	くだける結晶	B			22巻悲弟の巻	くだける結晶						8-2	003-057		11	928	下絵 001-033/ 下絵 001-172
317	くだける結晶	C					22-4	002-067									
318	軍閥茶話	カット	002-302												11	929	
318	蕨宵狩り	—			22巻悲弟の巻	蕨宵狩り									11	930	下絵 001-231
318	黙々離々	A	002-261		22巻悲弟の巻	黙々離々									11	931	
318	黙々離々	B															
318	黙々離々	C															
318	黙々離々	D															
319	牛の背の御方	カット	002-285		22巻悲弟の巻	牛の背の御方									11	932	
319	牛の背の御方	A														933	
319	牛の背の御方	B															
319	天王寺侍ち	C			22巻悲弟の巻	天王寺侍ち	22-5	002-060							11	934	下絵 001-230
319	天王寺侍ち	D															
320	市の小事件	カット	002-284														
320	市の小事件	A右															
320	市の小事件	A左															
320	吉野入り	B	002-309		22巻悲弟の巻	吉野入り									11	935	
320	吉野入り	C														936	
320	吉野入り	C左	002-287													937	
321	ふたりの五昼夜	カット	002-260		23巻静の巻	つらら藤									11	938	
321	ふたりの五昼夜	A		未発表 002-259												939	
321	下天上天	B	002-281		23巻静の巻	下天上天									11	940	
321	下天上天	C右左	右002-286/ 左002-258														
322	女人結界	カット			23巻静の巻	女人結界									11	941	
322	女人結界	A														942	
322	雪鼓	B			23巻静の巻	雪鼓	23-1	002-071				8-3	003-054		11	943	下絵 001-176
322	雪鼓	C															
322	雪鼓	D															
323	覇者の座	カット	002-251		23巻静の巻	覇者の座									11	944	
323	覇者の座	A	002-310													945	未発表 001-032/ 手控 001-062
323	幕府成る日	B			23巻静の巻	幕府成る日									11	946	下絵 001-175
323	幕府成る日	C	002-257														
324	六波羅別	カット		未発表 002-255	23巻静の巻	大冨									11	947	
324	六波羅別	A	002-253														
324	静貞め	B右左	右002-301/ 左002-256		23巻静の巻	静貞め									11	948/949	
324	静貞め	C右左	左002-291														
325	流転迅速	カット	002-254		23巻静の巻	流転迅速									11	950	未発表 001-060/ 下絵 001-221
325	流転迅速	A															
325	藤室の八弟子	B			23巻静の巻	藤室の八弟子									11	951	
325	藤室の八弟子	C															
326	世間とここの一軒	カット			23巻静の巻	古女房									11	952	下絵 001-228
326	世間とここの一軒	A														953	下絵 001-170
326	女体の異兆	B			23巻静の巻	女体の異兆									11	954	
326	女体の異兆	C															
327	軍閥茶話 一前号までの梗概に代へて	カット	002-272												12	955	
327	初音の箱み	A			23巻静の巻	初音の箱み									12	956	

連載 順次	週刊誌「週刊朝日」1950年から1957年				『刊行本』1951年から1957年					『画帖』1956年と1959年			『新装本』1960年			月刊誌「小説週刊朝日」1972年		
	文章名	挿絵	作品番号	未発表画稿/下絵	巻名	文章名	挿絵	作品番号	未発表画稿/下絵	作品番号	未発表/下絵	巻名	作品番号	未発表/下絵	巻名	掲載番号	未発表/下絵/手控	
327	静・東送り	B		B題字 002-252	23巻静の巻	静・東送り	23-2	002-069		F122 初音の頼み		8-4	003-060		12	957		
328	五つきの帯	カット	002-303		23巻静の巻	五ツ月の帯									12	958		
328	五つきの帯	A								F123 五ツ目の帯								
328	廻る(なぶる)	B	002-273		23巻静の巻	廻る(なぶる)									12	959		
328	廻る(なぶる)	C								F124 廻る						960	下 絵 001-222	
329	鶴・丘奇事	カット			23巻静の巻	眞蝶奇事									12	961		
329	鶴・丘奇事	A																
329	雪のそで東舞	B			23巻静の巻	鶴・丘悲曲									12	962		
329	雪のそで東舞	C																
330	出生届	カット			23巻静の巻	出生届									12	963		
330	出生届	A								F125 敵府の産屋						964		
330	もの云はぬ四方の獄すらだにも	B			23巻静の巻	もの云はぬ四方の獄すらだにも									12			
330	もの云はぬ四方の獄すらだにも	C								F126 もの思う四方の獄すらだにも								
330	もの云はぬ四方の獄すらだにも	D																
331	非情有情	カット			23巻静の巻	非情有情						8-5	003-056		12	965		
331	非情有情	A					23-3			F127 非情有情						966		
331	猫と名月	B			23巻静の巻	猫と名月				F128 猫と名月					12	967	下 絵 001-174	
331	猫と名月	C																
332	大原御幸	カット			23巻静の巻	大原御幸						8-6	003-055		12	968	下 絵 001-183	
332	大原御幸	A																
332	大原御幸	B			23巻静の巻	月の輪の外									12	969		
332	月の輪の外	C																
333	軍間茶話	カット			23巻静の巻										12	970	下 絵 001-120/ 下 絵 001-119/ 手 控 001-031	
333	大原御幸・その二	A			23巻静の巻	大原御幸・その二	23-4	002-078		F129 大原御幸					12	971	下 絵 001-178	
333	大原御幸・その二	B																
333	おん素顔	C			23巻静の巻	おん素顔				F130 後白河					12	972		
334	霧の燈音	カット			23巻静の巻	霧の燈音									12	973		
334	霧の燈音	A								F131 霧の燈音								
334	六道	B			23巻静の巻	六道									12	974	未発表 001-182	
334	六道	C																
335	変化鏡へ時代	カット			23巻静の巻	変化鏡へ時代									12	975		
335	変化鏡へ時代	A														976		
335	不死身の死の日	B			23巻静の巻	不死身の人									12	977	未発表 001-194	
335	不死身の死の日	C								F132 不死身の人								
336	今年の盃蘭盆	カット			23巻静の巻	今年の盃蘭盆									12	978		
336	今年の盃蘭盆	A								F133 今年の盃蘭盆								
336	鶴と忠信	B			23巻静の巻	鶴と忠信									12	979		
336	鶴と忠信	C																
337	黒衣の代官	カット			23巻静の巻	文覚草履						8-7	003-061		12	980		
337	黒衣の代官	A								F134 よもぎの囃								
337	白い駒ころ	B			23巻静の巻	白い駒ころ									12	981		
337	紺掻き功徳	C			23巻静の巻	紺掻き功徳	23-5	002-070		F135 紺掻き功徳					12	982	手 控 001-004	
338	吉田の沙汰	カット			23巻静の巻	吉田の沙汰									12	983		
338	吉田の沙汰	A																
338	獅子身佛心	B			23巻静の巻	獅子身佛心									12	984		
338	こだま	C			23巻静の巻										12	985		
339	雀仲間	カット			24巻吉野嬢の巻	雀仲間									12	986		
339	雀仲間	A								F136 雀仲間						987		
339	雀仲間	B																
339	馬鹿大路	C			24巻吉野嬢の巻	馬鹿大路									12	988		
340	金貞使	カット			24巻吉野嬢の巻	此状									12	989		

連載 順数	週刊誌「週刊朝日」1950年から1957年				「刊行本」1951年から1957年				「画帖」1956年と1959年			「新装本」1960年			月刊時「小説週刊朝日」1972年		
	文章名	挿絵	作品番号	未発表画稿/下絵	巻名	文章名	挿絵	作品番号	未発表画稿 /下絵	作品番号	未発表/ 下絵	巻名	作品番号	未発表/ 下絵	巻名	掲載番号	未発表/下絵/手控
340	金貝使	A															
340	逢状	B			24巻吉野燐の巻	逢状									12	990	
340	逢状	C															
341	飯室問答	カット			24巻吉野燐の巻	飯室問答	24-1	002-114							12	991	
341	飯室問答	A															
341	湖畔の病家	B			24巻吉野燐の巻	湖畔の病家									12	992	
341	湖畔の病家	C															
342	船蔵春秋	カット			24巻吉野燐の巻	船蔵春秋									12	993	
342	船蔵春秋	A															994
342	母の弓矢	B			24巻吉野燐の巻	母の弓矢									12	995	
342	母の弓矢	C															
343	いまひとたびの	カット			24巻吉野燐の巻	いまひとたびの									12	996	
343	いまひとたびの	A															997
343	高雄の細道	B			24巻吉野燐の巻	高雄の細道									12	998	
343	高雄の細道	C															
344	金泥鬼	カット			24巻吉野燐の巻	金泥鬼									12	999	
344	金泥鬼	A															
344	大つもごり	B			24巻吉野燐の巻	大つもごり									12	1000	
344	大つもごり	C															1001
345	新春漫語	カット			24巻吉野燐の巻										12	1002	
345	新春漫語	カット															
345	御室左右記	A			24巻吉野燐の巻	御室左右記	24-2	002-115				8-8	003-062		12	1003	
345	偽勧進	B			24巻吉野燐の巻	偽勧進									12	1004	
345	千鐘全土				24巻吉野燐の巻	千鐘全土											
346	二十九の春	カット			24巻吉野燐の巻	二十九の春									12	1005	
346	二十九の春	A															
346	談議のしびれ	B			24巻吉野燐の巻	談議のしびれ									12	1006	
346	談議のしびれ	C															1007/1008
347	をかしげな男	カット			24巻吉野燐の巻	をかしげな男									12	1009	
347	をかしげな男	A															1010
347	二獣	B			24巻吉野燐の巻	二獣									12	1011	
347	二獣	C															F143 二獣
348	あけなほ石	カット			24巻吉野燐の巻	あけなほ石									12	1012	
348	冬眠の国	A			24巻吉野燐の巻	冬眠の国									12	1013	
348	冬眠の国	B															1014
348	安宅ノ関	C			24巻吉野燐の巻	安宅ノ関									12		
349	安宅ノ関の二	カット			24巻吉野燐の巻	安宅ノ関の二									12	1015	
349	安宅ノ関の二	A															1016
349	野々市殿	B			24巻吉野燐の巻	野々市殿									12		
349	野々市殿	C															
350	勧進問答	カット			24巻吉野燐の巻	勧進帳									12	1017	
350	勧進問答	A															
350	勧進問答	B			24巻吉野燐の巻	皮剥ぎ追尾	24-3	002-113							12	1018	下絵 001-181/ 右下絵 001-121
350	皮剥ぎ追尾	C															1019
351	能登の平家	カット			24巻吉野燐の巻	能登の平家									12	1020	
351	能登の平家	A															1021
351	桃源の日は短くて	B			24巻吉野燐の巻	桃源の日は短くて									12	1022	
351	桃源の日は短くて	C															
352	仇し弓	カット			24巻吉野燐の巻	仇し弓									12	1023	
352	仇し弓	A															
352	義経最期	B			24巻吉野燐の巻	義経最期									12	1024	
352	義経最期	C															1025
353	南海夜泊	カット			24巻吉野燐の巻	南海夜泊									12	1026	

連載 順数	週刊誌「週刊朝日」1950年から1957年				「刊行本」1951年から1957年				「画帖」1956年と1959年			「新装本」1960年			月刊時「小説週刊朝日」1972年		
	文章名	挿絵	作品番号	未発表画稿/下絵	巻名	文章名	挿絵	作品番号	未発表画稿/ 下絵	作品番号	未発表/ 下絵	巻名	作品番号	未発表/ 下絵	巻名	掲載番号	未発表/下絵/手控
353	範頼臨し	A			24巻吉野燾の巻	範頼臨し									12	1027	下 絵 001-177/ 下 絵 001-059/ 下 絵 001-030
353	範頼臨し	B								下147 南海夜泊							
353	椎葉の山波	C			24巻吉野燾の巻	椎葉の山波						8-10	003-058		12	1028	
354	広びなき人々	カット			24巻吉野燾の巻	広びなき人々									12	1029	
354	広びなき人々	A					24-4			下148 椎葉の奥・ 下149 深山平家						1030	下 絵 001-122/ 下 絵 001-232
354	傘の要らぬ日	B			24巻吉野燾の巻	傘の要らぬ日									12	1031	
354	傘の要らぬ日	C															
355	勝者の府にも	カット		下絵 002-219	24巻吉野燾の巻	勝者の府にも				下150 加茂の肩がね					12	1032	
355	勝者の府にも	A														1033	
355	頼朝の死	B			24巻吉野燾の巻	頼朝の死									12	1034	下 絵 001-180
355	頼朝の死	C															
355	吉野燾	D			24巻吉野燾の巻	吉野燾									12	1035	下 絵 001-034
355	吉野燾	E	002-318							下151 吉野燾	002-318						
355	完結のことば	カット			24巻吉野燾の巻	完結のことば											
355	完結のことば	カット			24巻吉野燾の巻	完結のことば											
					100原画 中73原画 (76葉) を所蔵 他、私家本原画 2					303原画 中 5 原画 を所蔵			77原画 中77原画 を所蔵				